



第32号

発行 東京清陵会(諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部) 会長=原大 編集=88回生(昭和57年入学)&事務局 <http://www.tokyoseiryokai.jp>  
事務局 TEL 080-3939-0266 mail tokyoseiryokai2017@gmail.com DTP=スタジオパラム

# 新しい社会をどう創るか

## — 感染する独善と分断を超えて —

2020年1月、中国・武漢で人間への感染拡大が発覚した、新型コロナウイルス・COVID-19による感染症は、我々をより活動的にし、より広範な認知拡大をもたらすはずだった「グローバリズム」の波を逆手に取り、瞬く間に全世界に感染拡大してしまった。

この1年半の間、日本だけでなく、全世界で、この新しい感染症について各種メディアで報じられぬ日はなく、われわれ自身も、第三者とコミュニケーションを取る際、新型コロナウイルスに関する話題に触れぬ日はおそらく一日たりともない。われわれ人類は、好むと好まざるに関わらず、このウイルスががっちり社会生活に食い込んだ時代を生きざるを得ない事態に直面している。

……で、あれば、一人ひとりが『大人』

として、日々、微力かもしれないが、社会貢献しながら生きているわれわれが、ただどこかの誰かが『ニューノーマル』『新しい生活様式』を提案するのを待つことは消極的に過ぎるだろう。この新型コロナウイルスのパンデミックという災厄・災害に立ち向かい、いなし、そして人類として遅くこの事態を克服して前を向いて進むために何をし、どう考えていくべきなのかを、自ら考え、声をあげて社会に提案して行くべきであろう。

2021年、日本は2011年の東日本大震災発生から10年という節目の年を迎えた。あの未曾有の災厄・災害である震災の後、われわれはあまりの惨状にそこに希望や教訓を見出すことを忘れ、『心をひとつに』といった類の安易な、そして曖昧な言葉に流されて、そこに少しでも疑義を唱え

たり、他のやり方を提示する者に対して『不謹慎』という批判や中傷を投げつける、恐ろしく不寛容な社会を生み出してしまった。

新型コロナウイルスのパンデミックと、それによって生み出された世界的な混乱は確かに災厄であるが、われわれはそこから今度こそ次代につながる希望の種を拾わなければならないのではないかと。

その思いを込めて、この特集を企図するものである。

近い未来、この災厄を乗り越え「あの時期があったからこそ、今がある」とみんな顔突き合わせて語り合える、新しい世界を待ち望みながら、今ある現実を真正面から見つめていきたい。

(2021年度当番幹事 88回生一同)

2021年度

## 東京清陵会定期総会のご案内

### 総会・懇親会 中止

新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、総会・懇親会は中止することとしました。総会決議事項は同封の返信ハガキにて回答お願いいたします。イベント出欠の有無にかかわらず同封のハガキに必要な事項をご記入の上、9月17日(金)必着でご返信ください。

### 総会イベント オンラインにて開催いたします。

- 日時 2021年10月3日(日) 14時から16時30分
- オンライン上での開催となります(ZOOMでの開催)。
- 内容(予定) 同封のチラシをご参照ください。  
ミニ講演会、グループ談話会など
- 参加お申込みは3つの方法があります。
- 1. 同封のハガキにて申し込む(メールアドレスは必ず明記してください)。
- 2. メールにて申し込み(名前、回生を明記してください)。  
[tokyoseiryoku21@gmail.com](mailto:tokyoseiryoku21@gmail.com)

### 3. 専用エントリーフォームにて申し込む。

以下のURLにアクセスしてお申し込みください。  
<https://forms.gle/tCrrkoGc8ZZmabRS6>

■メールアドレスは登録させていただき、同窓会からの連絡に利用させていただくことがあります。ご了承ください。

■参加申し込みの方には追って、当日の接続方法をメールにてご案内いたします(開催の1週間程度前の送信を予定しております)。

会報特集をご覧いただき、当日イベントへの質問意見、メッセージも返信ハガキまたは申し込みメールでお寄せください。すべてにお答えできない場合もありますが、ご了解ください。

2021年東京清陵会総会・オンラインイベントについての

●問い合わせ先 [tokyoseiryoku21@gmail.com](mailto:tokyoseiryoku21@gmail.com)

●当番幹事88回生、次年度幹事89回生、

サブ幹事93・98・108・118回生、学生幹事122回生



お申込みはこちらから

新しい社会をどう創るか —感染する独善と分断を超えて—

巻頭  
特集

# 追い求めてきた その幸せの先へ

第88回生  
座談会報告

わずか5千分の1ミリのウイルスによって、世界が翻弄され続けている。仕事、経済、教育、くらしなどのいたるところで、長く親しんできた方法が立ちゆかなくなり、しかし気がつけば、より柔軟で強靱なメソッドがそこかしこに芽吹き始めている。この大きな転換期に、しばし立ち止まって考えてみるのはどうだろうか。われわれはどこからきて、何者で、どこへいくのか？ そして、今ここから追い求める幸せとは何だろうか？ 卒業して36年、ひたすら前を見て走り続けてきた88回生の5人が集い、語り合った。

## 心にしまわれた声を聞く

**楠見春美 (進行)** 本日は、コロナ禍によってゆれ動く時代の中で、みなさんが日々どんなことを考えておられるのかを、「幸せの価値」をテーマにうかがってみたいと思います。早速ですが、現在のご活動と、その中で特に注目し、考えていることなどをお聞かせください。木澤さん、いかがでしょう。

**木澤義之** はい。僕は、神戸大学医学部で、教官と医師をしています。専門は総合内科学で、その中でも特に「緩和ケア」という、治ることが難しい患者さんの終末期ケアの臨床と研究をしています。大学病院には、ベッドが900床あって、医師は700人います。そこで若い医師たちをトレーニングする仕事が全体の半分以上にあたり、約3割が患者の診療、大学での学生の指導が1割といった感じです。他に、日本緩和医療学会の理事長を務めていて、小さな学会ですが、緩和医療の学術向上のために活動しています。

**楠見** 木澤さんは、なぜ医療の道に進んだのですか？

**木澤** 人間を理解する仕事をしたかったんです。ですが清陵を出て医学部に進んだものの、4年生ぐらいまではつまらなく感じて、ほとんど授業にも出ずにひとりで勉強していました。大きな変化は、病院実習を通じて患者さんと出会ったことで、治療が難しい病気にかかって肉体的にも精神的にも困ったり苦しんだりしている人たちが、人生の最後の瞬間まで充実して生活できるように支援することに興味をもち、この仕事を面白いと思い始めました。といっても、医師になって10年は使いものにならないわけで、医師になってしばらくは研修医として基本的な臨床能力を身につけ、専門医となってから約20年かけて、「緩和医療」を実践してきました。臨床でも研究でも「Good Death (望ましい最期)」をテーマに、人生の最終段階で人は何が幸せなのか、どんなことが大切なのかをまっすぐ見てきたつもりです。

**浜 美智子** 幸せではない亡くなり方をする人は、幸せな亡くなり方をする人とどこが違うのですか？

**木澤** 僕は、幸せとは、究極的にはリレーションシップ (関係性) に依存するもの

だと思っています。R. ウォールディングは、幸せは富や名声、名誉との相関はなく、近い人たちとの関係性と相関があることを研究で実証していて、僕も臨床でそれを実感しています。孤独であったり、人として受け入れられていないという気持ちを持っていると、不満や苦悩が強いのではないかと感じています。でも、そんな人でも変わっていくんですよ。「人との関わり合い」によって、最後まで人は成長していきます。ですので、仕事の中では、患者さんとの関係を豊かにし、深めていくことを大切にしたいと思っています。

**楠見** 患者さんとの人間関係を育むために、特別に実践していることはあるのですか？

**木澤** 今はできないのですが、以前、緩和ケア病棟に勤務していたときには、よく患者さんと一緒に (注：患者さんの部屋にお弁当を持って行って) お昼ごはんを食べていました。家族が面会に来ない方は孤独なんですね。何度か食事を共にすると、会話が進むようになります。僕はどんな人生を過ごして今に至るのかをしっかりと聞いて、その上で、これからのことを本気で心配するようにしています。このことは医師として重要な仕事だと思っているので、同僚や部下にも薦めています。

**浜** 私は仕事で多くの老人施設に行きますが、スタッフが明るく穏やかな施設は、ご入居者も穏やかという傾向があるように思います。また、認知症が進行して表情が少なくの方でも、サークル活動をしていると話したり笑ったりし始めます。人

幸せとは、人との関わり合いによるものではないかと思っています。



**木澤義之** Yoshiyuki KIZAWA

神戸大学院医学研究科教授、同大学医学部附属病院緩和支援診療科特命教授 諏訪中学出身。筑波大学医学専門学群卒。研修医の頃から緩和ケア医療に従事。緩和ケアの日本屈指のスペシャリストとして患者の診療をしながら学生、若手医師を指導。日本緩和医療学会の理事長も務めている。

間というのは、人からの働きかけで、脳などが活性化するのだと思いますね。

## まだ見ぬ楽しみを生んでいく

**楠見** 浜さんは、どんなお仕事をしているのですか？

**浜** 私は5年前に「BEPPIN マルシェ」という会社を立ち上げて、老人施設に入っている方々に、お買い物とコミュニケーションの場を提供する仕事を始めました。お洋服や食べ物などを自分で選べるように簡易的にお店を出したり、音楽会やサークル活動などを提供する事業です。もともとは、自分が年をとったときに、どこにいてもやりたいことができる環境になるといいな、と思ったのが始まりでした。「お買い物の時間」を楽しんでいただくことで、物理的な満足だけでなく、精神的な満足をもたらすことを目指しています。コロナ禍になって、施設のスタッフと深く話をする機会が増え、より「困りごと」が見えてきました。例えばボタンが小さすぎて自分では留められない男性がいるけれど、身体機能を維持するためにも自分で留められるような商品が欲しい、という施設のスタッフの声や、オリジナル商品を開発するきっかけになったこともあります。これなどは入居者の声とスタッフの思い、私のもつネットワークがうまく繋がった事例です。

**楠見** 浜さんのお仕事は、マスプロダクトやマスマーケットに代わる個々のニーズに向けたビジネスで、昨今の「多様性」や「インクルーシブ」といったキーワードも含まれていますよね。

**浜** とはいえ私の仕事にとって、コロナの影響は相当なもので、緊急事態宣言の初日にありとあらゆる老人施設から中止の連絡が入ったんです。途方に暮れたのですが、そもそも自分がやりたかったことはコミュニケーションをとって喜んでいただくことですし、お買い物ができない不便さもあるだろうから、なんとか問題を解消したいと考えて、新しい手法で販売を始めてみました。施設に自分が入れないぶん、カタログやチラシを届けてファックスで注文を受けるとか、カーディガンが2枚欲しいというご入居者がいた

## 人に喜んでもらえることに大きな価値を見出した1年でした。



**浜(佐藤)美智子** Michiko HAMA (SATO)

株式会社BEPPINマルシェ代表 長峰中学出身。慶應義塾大学文学部卒。採用コンサル会社やリクルートで通販誌事業の立ち上げ、マーチャンダイジング(MD)に携わったのちに起業。老人施設や百貨店での催事販売、通販商品企画・MDが主な事業内容。

ら、ラックで10枚ぐらい持っていってお買い物を楽しんでもらうとか。そんなことをやり始めたら、スタッフの方にも入居者の方にも尋常じゃなく喜ばれたんです。その時に私の方も、お金ではないものをたくさんもらっていることとでも価値を感じました。この1年は、自分が変わった1年でしたね。

**楠見** 浜さんは、心が通い合う新たな経済活動を、柔らかな感性で育てていると感じます。小林さんは浜さんのご活動をどう思われますか？

**小林 隆** すでに超高齢社会の日本においては、老老介護とか孤独死のような厳しい現実、悲しい出来事は、自分の身内を含め他人事ではないですからね。浜さんのような活動がもっと大きなうねりになってほしいと思います。

## 世界を眺めて此処を知る

**楠見** 小林さんご自身はどんなことに取り組んでいるのですか？

**小林** 僕は時事通信社で、金融や行政の実務情報をさまざまな企業、団体のプロに届けるニュースサービスの企画、営業に携わっています。

**楠見** 経済や行政の視点から、コロナ禍のどこに注目していますか？

**小林** 報道機関の団体による今年はじめの世論調査で、コロナ禍で自国政府が感染対策と経済対策のどちらを重視したと思うかを調査したところ、中国、韓国、タイなどでは感染対策を重視したという回答傾向でした。感染状況の進行具合や経済的発展の度合い、宗教的思想など国ごとの事情があることは言うまでもありませんが、それらの国では経済よりも人命を守ること、家族との繋がりを維持することを第一に考えていたという側面がうかがえます。今は、世界的な動向とともに、国による違いに目を向けることがより重要な時代だと思います。インドの感染爆発のきっかけのひとつに、ヒンズー教の大祭「クンプメーラ」に数百万人が集まったことが挙げられていますね。欠かすことのできない宗教行事が優先されてしまったわけです。

**楠見** 人間は心や文化をもつ存在であり、それゆえ一筋縄ではいかない側面がコロナ禍でより顕著に表れていて、小林さんはそこに注視しているのですか。ところで、海外へ向ける眼差しは、いつからお持ちなのですか？

**小林** 大学4年になって、世界のことを何も見ないまま社会人になるのか？と、休学して日本を出ました。その年、1989年は天安門事件やベルリンの壁崩壊など

## コロナ禍の国による価値観の違いに注目すべきではないでしょうか。



**小林 隆** Takashi KOBAYASHI

時事通信社本社業務企画部長 岡谷西部中学出身。明治大学商学部卒。大学4年時に休学し放浪の旅に出たのち入社。国内各地の勤務を経て、香港特派員として5年間、香港、中国、華南、東南アジアの営業統括を務め、ベトナムへの進出も担当。現在は、金融系・行政系ニュースサービスの企画・営業を担当。

## 時代を広げることで、 今の状況を距離を置いて見ることができます。



**野澤 聡** Satoshi NOZAWA

獨協大学国際教養学部言語文化学科准教授 茅野北部中学出身。京都大学理学部で学士、文学部で学士・修士、東京工業大学で博士号を取得。文部科学省等の非常勤職員として政策に関する調査研究・企画立案に従事したのち現職。専門は科学史、科学論。初期近代の物理科学の形成過程及び科学技術政策の形成過程を研究。

でまさに激動の時代。当時、藤原新也や沢木耕太郎が流行っていて、僕もそこに乗りたかったです。それは清陵の仲間からの影響です。旅に出て、道中で「君はインドに行くべきだ」と言われ降り立ったその国は、まったく違う価値感で生きている世界でした。ガンジス川の沐浴を欠かさず、死の間際までどれだけ徳を積めるかという宗教観で生きている。経済優先で血眼になっている自分の国との違いに衝撃を受けました。また、2013年まで5年間、特派員として香港に暮らし、ベトナム事業開始の任務にもあたったのですが、取材でベトナム北部の山岳少数民族、ヌンファンシン族を訪ねる機会がありました。僕らのクルーはその村に初めて入った日本人だったようです。険しい山奥の彼らの生活は決して豊かとはいえませんが、自給自足で、争い事もなく家族で平和に何不自由なく生きていました。「日本人の幸せって何だろうか?」と自問しました。かつて来日したマザー・テレサが言った「物理的に豊かな日本には、心が飢えている人が大勢いる」という言葉に繋がります。

**楠見** 日本人は幸せなのか? それは深い問いかけです、小林さんのように外に視点を置いて見ることの必要性を改めて感じます。自分を客観視するということが私自身のお話をさせていただくと、私にとって、人間存在へのひとつの視座を与えてくれたのは科学でした。今の自分は46億年の地球史の上において、この地球にエネルギーを降り注ぐ太陽はあと50億年で枯れ、青い地球も活動を終えていく。そして今の私はヒトという膜に包まれた生命体として38兆個の細胞を更新しながら生きているけれど、寿命が終わると大きな宇宙の中に原子分子の存

在となってとけ込んでいく。そんな自然観で自分を見ると、価値観も幸せの感じ方も変わります。清陵時代は苦手な科学でしたが、仕事でその目を養えたことはとても幸せでした。科学といえば、科学史がご専門の野澤さんがいらっしゃいます。野澤さんは、なぜ科学史を追究してきたのですか? 今のお仕事のことも教えてください。

### 科学と歴史の尺度を携える

**野澤 聡** 獨協大学の国際教養学部で教員をしています。専門は科学史と科学技術社会論ですが、大学では、専門に関する授業やゼミに加えて、初年次教育も担当しています。科学史の中でも特に、初期近代(17世紀~19世紀初頭)のヨーロッパの精密科学が専門です。つまり、力学、天文学、数学の形成過程を核とする研究です。一方で、科学技術社会論といって、現代の複雑化した科学技術と社会の関係を考察し、分析する研究もしています。科学に興味を持ったのは、清陵時代に、ここにいらっしゃる小林さんが部長を務めていた天文気象部がきっかけでした。部活が寝ることよりも好きでしたね。大学でも天文学をやろうとしたのですが、京都大学を目指す浪人中に古文漢文など

古い言語が面白くなり、結局、理学部に入ったあとも、古典ギリシア語やフランス語を文学部の連中と勉強していました。「古いものは面白い」と思ってニュートンの原典を読んだりしていると、たまたま科学史や科学哲学を専門とするコースが文学部に新設されると聞いて、学部の3年次に編入したんです。そこでは念願の古典ギリシア語、ラテン語、フランス語、英語の演習三昧の生活でした。卒論はデカルトの運動についての議論を掘り下げました。その後、東工大の大学院に進んで、学位を取得したのが2009年。僕の場合、大学でのまわり道が長かったですね。

**楠見** なんと長い道のり。その孤高の強さはきっと清陵魂ですね。

**野澤** 「歴史」というのも、今われわれが置かれている状況を見るためのひとつの方法です。時代を広げることで、今の状況を距離を置いて見ることができます。また、他の時代の人々の価値観や暮らしと比較して現代を見ることができる、という点でも意味があると思います。

**楠見** 野澤さんは一方で、現代の科学技術と社会の問題も研究していますが、科学技術の発展に伴う人間活動の拡大は、リスクももたらしています。コロナウイルスもそのひとつといわれていますよね。目の前で展開されている科学技術とリスクの問題では、どこに注目していますか?

**野澤** 一つは、コロナ禍で議論のベースとなるはずの科学的医学的知見が、残念ながらあまり人々に重視されていないことです。このことは、今人類が直面している事実として深刻で、考えていかねばならない問題であると考えられています。二つ目は、これまでのワクチンではウイルスの一部のタンパク質を人体に投

## 科学の自然観で自分を見ると、 価値観も幸せの感じ方も変わります。



**楠見(柳沢) 春美** Harumi KUSUMI

フリーランス編集者 諏訪西中学出身。東京外国語大学ロシア語科卒。美術出版社で編集者を務めたのち、日本科学未来館、科学技術振興機構で科学を社会に伝える活動に従事。現在は科学および芸術デザインの両分野で、編集・プロジェクト開発を行う。東京藝術大学デザイン科デザイン共同研究プロジェクト講師も務めている。

与してきましたが、コロナウイルスのワクチンでは、mRNAとよばれる、ウイルスのタンパク質をつくるものになる情報の一部を投与するという手法が試されました。その斬新な手法が、あっという間に世論に受け入れられたことに注目しています。このことは、私にとって非常に新鮮で、危機に直面して柔軟になる人類の可能性を実感しています。さらに三つ目として、浜さんのお話にも通じますが、オンラインによって多様で柔軟な学びが実現されていることです。この感染症で、できることは何でもやろうと試行錯誤がなされた結果、日本社会も含め人類が柔軟になり、プラスに働いている部分があるのを見ることができます。もちろん対立の激化などの問題も発生し、先行きを楽観視できないところもありますが、それでも可能性を感じますね。

**楠見** 確かに、惨状をも革新のパネにする人類の強さ、したたかさを感じます。

## これからの幸せへの眼差し

**楠見** さて、みなさんのお話によって、それぞれの専門性からの注目点を共有することができました。では、その上で改めて、これからの幸せの価値とは何でしょうか？ 皆さんはここからの一歩を、どこに向かって踏み出しますか？

**木澤** 僕は、コロナ感染症はワクチン接種がある程度進めば収束すると思うので、あと1年の我慢と見ています。では、そこを抜けた未来をどうデザインするのかと考えるとき、ひとつのキーワードは「地球温暖化」です。その脅威にどう向き合うのか。僕はもはや右肩上がりの社会はありえないと思っているので、どうやって支え合い、少しでも地球環境に影響を与えない継続可能な生活を送っていくのかを、国全体で考えていかなければならないと思います。また、僕らの社会が人との関わりや身近な友人、家族を大切にしていけるものに立ち戻り、支え合うことができる「コンパッションネート・コミュニティ(Compassionate community)」を目指していければよいと思います。そしてマスクも含め、より本質的なことを議論できる世の中にしていけるといいとも思

ますね。

**浜** 実は私も、この1年でいちばん頭に浮かんでいたのが「本質」という言葉でした。どんな事象に対しても本質とは何かを考えなければならないと思って、いつも自分に問いかけていましたね。「どうしよう」と感わされることが多いからこそ、自分がやるべきことは何か、いちばんの本質やコアな部分を考える。そうすれば、周りのツールなどを使って何かしら次の対策が打てるというのを非常に感じましたし、それはこれからの世の中を生きていくために大切なことだと思います。もう一つは、拜金主義ではなく、別の何かをもらって嬉しいと思える人が増えていくのではないかと、その兆しが出てきていると感じています。

**野澤** 浜さんのおっしゃるように、私たちはこの感染症で、どうしてもせざるを得ないところに投げ込まれたことによって、なんとか手持ちの活用できるものを使って、生活の至るところでいろいろな活動を継続することを学びつつあります。私自身はその学びを加速させたい。一方で、今回、科学研究を根拠とする情報が十分でなく、その知をもとにしたコロナ対策がなかなか講じられないという問題に対して、なぜそのようなことが起こるのか、どうすればいいのかを探求していきたいと思っています。皆さんが科学技術を理解して、認識し、議論できる、そんな社会になるためには何が必要なのか、研究を進めていきたいと思っています。

**小林** 今日のみなさんのお話の中で、人

との支え合いや関係性がクローズアップされていました。僕もコロナ禍によって、人は一人では生きていけないという当たり前のことを余計に感じています。一方で、例えば黒人差別やアジアン・ヘイトから身近にもある憎悪の感情まで、社会を分断する事象と、そこから生まれるフェイク・ニュース的なものに感わされてしまうことがパンデミックの怖さで、そこであたふたしないためにも、他者を理解し自分を知る術を持つことが大事だと思います。マスク生活が日常化して相手の表情が見えない、自分の表情も伝わらない。これも自分と他人の分断です。表情を失った子供が増えるのは恐ろしいことです。そんなことも念頭に置きながら次のステップに進んでいかなければと感じています。

**楠見** 本当にそうですね、小さな変化にもっと目配りしていかなければ。さて今日のみなさんのお話をうかがって、コロナ禍というものを、環境の側面と、非常にソフトな存在である人間の側面の二つの方向から捉えることができたように思います。木澤さんがお話された環境問題への対策もそうですが、私としては改めて「バランス」を考えるタイミングではないかと思いました。本質的で気持ちのいいバランスとは何か、それを問いかけながらこれからの幸せを見つけていきたいと思っています。本日はたくさんの刺激的なお話をいただき、ありがとうございます。



座談会は2021年5月にオンラインで開催。同期の総会幹事である村山光義、倉科和則、藤森裕基、矢嶋肇の協力のもと行った。

新しい社会をどう創るか—感染する独善と分断を超えて—

特集  
2

# コロナ禍を果敢に生きる 同窓生の姿

コロナ禍が2年目に突入し、社会生活は依然として制約が続いています。

そんな中で多大な影響を受けながらも情熱を持って自身の生き方を貫く方々取材しました。(2021年4月取材)

## ニューヨークで 音楽家として生きるということ

木川貴幸さん(88回生) ●ピアニスト ニューヨーク在住

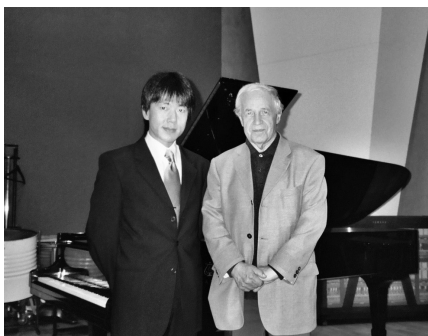
### 2021年4月 ニューヨーク・マンハッタン

朝8時。リビングで近所のコーヒーショップでテイクアウトしたコーヒーを飲む。午後には友人と約束したランチの予定。その前に少し指ならしのための練習を……。

そんな今までの日常がやっと戻って来た。4月時点でアメリカはワクチン接種率が約50%、先週から国内旅行はPCR検査なしでどこでもOKとなった。オフブロードウェイの小劇場は、徐々に活動再開、5月末には大劇場も公演を始める。まだマスク着用はしているが、街も以前の賑わいが戻りつつある。

### 悪夢のような 2020年4月

ちょうど1年前の2020年4月。ニューヨークは「悪夢のような」エピセンターとなっていた。感染者数は一日6,000人から7,000人(ニューヨーク市内のみ)、死者は一日700人超。クオモ知事はあえて「ロックダウン」という言葉こそ使わ



2003年パリにて。ピエール・ブーレーズにレッスン受けていた日々。

ないが、日常の買い物、近所の散歩以外外出禁止、違反者には罰金という事実上の都市封鎖。普段は人であふれている5番街やロックフェラーセンターから人が消えた。5番街から歩いて20分ほどの木川さんのアパートメント周辺の通りは誰もいない。

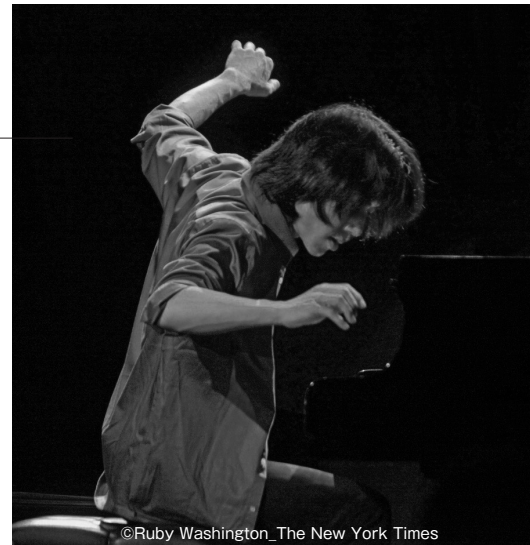
静かな街に聴こえるのはひっきりなしに通る救急車のサイレンの音のみ。高層ビルの壁に反響して増幅される。

得体のしれない病氣。流れてくるさまざまな噂。「かなり深刻なことになっている」という不安が押し寄せる。演奏会場は閉鎖され、予定していたコンサートは「まるで空港の電光掲示板の文字が変わるように」全てCancelledに塗り替わった。

### 自らの力で 道を切り開く日々

木川さんがニューヨークに渡ったのは24歳の時。在学していた東京学芸大学に来たジュリアード音楽院の教授に「見初められ」、奨学生としてピアノ科の修士課程に入学。同時にコンサート活動も始めた。初めは特にツテがあるわけではない。学校に掲示されているオーディション情報を見て受けに行く。「運が良ければ」コンサートができる。そうやって徐々につながりを築き、オーケストラとのコンチェルト、ソロリサイタル、プライベートコンサートなどさまざまな演奏活動をしてきた。

活動拠点はニューヨークだが、演奏の場は世界中。フランス、イタリア、スぺ



©Ruby Washington\_The New York Times

### PROFILE

さがわたかゆき／長峰中学出身、信州大学教育学部、東京学芸大学大学院、ジュリアード音楽院修士課程卒。同大学院在学中よりニューヨークにてピアニストとして活動。これまでにカーネギーホール、リンカーンセンターを始め世界の主要コンサートホールで演奏。バロック音楽から現代音楽までレパートリーは広い。

イン、南米、そして日本。各地のコンサートでその年の「ベストコンサート」に出されたり、今は亡き世界的作曲家・指揮者ピエール・ブーレーズや、ジャズ界の巨匠ユセフ・ラティーフラとも共演を実現するなど精力的に活動していた。月の半分はコンサート、リサイタルの予定で埋まっていた。

それが一転。全くの白紙状態となった。ニューヨークのアーティストのほとんどがそうであるように木川さんもフリーランス。コンサートを開催しなければ収入はない。多くの音楽関係者が失業し、有名なライブハウスもバタバタと潰れていくのを目の当たりにした。

だが、木川さんは立ち止まっていたはなかった。ニューヨークとは「自分から行動していく力がないと生きていけない街」だということは身をもって知っている。「考えるより先に行動する」のがNYス

タイトル! なのだ。

木川さんも「音楽家として生き続ける」ためにすぐに動き始めた。それまでのつながりを使ってさまざまな財団の助成金や補助金を申請したり、銀行に融資を申し込んだりして、なんとか音楽活動を継続した。PCR検査をその都度しながら、少人数でのプライベートコンサートの開催、オンラインでの同時配信。

できる限り生の音を届けたい。それが演奏者としてのこだわりでもあった。

## 音楽の持つ 希望の光を日本へ

そんな折にニューヨークの日本国総領事館からあるオファーが届いた。ニューヨークで活動する日本人音楽家を支援するための、外務省主催のオンライン配信リサイタルの依頼だった。大使の山野内勘二氏は自らもギターを弾く無類の音楽好きで、昨年アメリカ独立記念日のお祝いにアメリカ国歌をジミヘン風にギター演奏する動画を挙げて、50万人から「イネ」が届いたという逸話の持ち主でもある。

20年10月から始まったコンサートで木川さんは第3弾の12月に演奏することになった。カメラ、音声ワークは日本のテレビ局の駐在員の方々が担った。日本

時間の朝7時。コンサートの始まりだ。

目の前の観客は大使を始め十数人だったが、人前で演奏できることが嬉しかった。演奏しながら「お客様と時間と空間を共有して一緒に演奏を上げることこそ、音楽家としての自分にとって何よりも大切なこと」なのだと改めて感じた。そして「ライブ演奏の素晴らしさ、芸術が本来的に持つ希望のようなものが遠い日本にも伝わりますように」という思いを音に込めた。

日本では清陵の同窓生たちがSNSを通じて「Taka Kigawa コンサート開催」を伝えあった。画面越しに見る木川さんの姿。相変わらずの超絶技巧に皆、心躍らせた。

1時間程の演奏の後、世界中からの賞賛のメッセージが読まれ、日本からのコメントも伝えられた。

## そしてこれからも 音楽家としてニューヨークで

ニューヨークはワクチン接種が進んでおり、木川さん自身は1月に接種を済ませることができた。「教育活動に携わる人」は優先的に接種を受けられることになっており、音楽大学で教えることのある木川さんは、早めの接種となった。今では近所のドラッグストアなどでも予約なし

で接種できる。この1年近い知り合いも何人か亡くなっており、お葬式すら延期が続いている。決して良い1年だったとは言えないが、ワクチンの有効性が証明されてきていることが大きな希望だ。

木川さん自身の活動も今、秋のコンサートシーズンに向けた企画がいくつか進んでいる。再開はまず、ここニューヨークから。そして全米、さらに世界へと広がっていきたい。日本での公演は少し先になるかも知れないが、自由に往来できるようになったら行きたいと思っている。

「ニューヨークで音楽家として生きて」今年でちょうど30年。自らの手で築き上げた自らのアイデンティティを表現し続ける。振り返ってみるとそれは清陵時代に培われた力だった、のかも知れない。



木川貴幸さん公式ホームページ  
<https://www.takakigawa.com/>  
\*外務省主催のオンラインリサイタルも見ることができます。@takakigawa

# 見つめ、励まし、励まされ 深刻な医療現場の医師として

マディーン(今泉)啓子さん(73回生)

●浅草寺産業医・ふれあい横浜ホスピタル健康管理センター非常勤医

## コロナで激変した 生活スタイル

マディーンさんの浅草寺病院の勤務日は当初は週5日。65歳の定年後は月、水、木、金。自宅のある横浜からは電車を乗り継いで1時間45分かかる。往復3時間30分の長旅だ。

日本中にコロナ感染が広がって、その生活は一変した。医師として、満員電車で感染など洒落にならない。通勤手段はマディーンさん曰くの「つれあい」である夫の窪田敏さん(同じ73回生)の運

転する車となった。水曜日から金曜日は体力温存するためにも病院近くのホテルに2泊。窪田さんは週に4回横浜と浅草を往復するという生活を1年続けてきた。

## 院内感染を 徹底的に防ぐ取組み

浅草寺病院はコロナ患者入院を受けられていないので「受け入れ病院職員さんの疲労度とは比べ物にならない」とマディーンさんは言うが、コロナ感染からもコロナの以外の病気からも地元の人々の命を守らなければならないという使命



### PROFILE

までいーんけいこ / 上諏訪中学出身、杏林大学医学部卒業後医師として同大学病院、国立療養所、心臓血管研究所、生命保険会社などに勤務。アメリカ居住をはさんで、老人保健施設、鎌倉や藤沢の病院勤務を経て、58歳から東京浅草の浅草寺病院内科に。11年間務め、本年3月に退職。4月より横浜の健康管理センター勤務。



「つれあい」窪田さんとの2ショット。

がある。診察でコロナ疑いと判明すれば、時間を決めて、裏口から入ってもらい検査、陽性だった場合はそのまま保健所に連絡し対処依頼である。

また、院内感染を防ぐため予約入院の患者さんには全員迅速抗原検査とPCR検査を実施。そのため、幸いにも院内で患者さんから患者さんへ感染したというケースはない。しかし入院時迅速抗原検査陰性で、入院翌日に前日のPCR検査陽性が判明というケースは見られた。その時は即保健所の介入でコロナ専門病院に転院となる。

このような場合、感染リスクがあるのは医師や看護師のみならず、病院職員全員だ。リスク回避のためどんな疾患であっても入院患者さんにはPCR検査結果が出るまで個室で過ごしてもらい、その間はガウンとN95マスクなど完全防備で対応。これである程度感染を抑えられた。しかしそれでも不備で、さらに、予約入院は3日前に唾液PCR検査をする方式に変更。医療現場は日々ルール更新が続いている。

## 自身の感染リスクと戦いながらも患者さんに寄り添う

窪田さんの支えもあり、マディーンさん自身は感染せずにコロナ禍を過ごしてきた。ただ、精神的・肉体的なストレスは尋常ではなく、この期間、带状疱疹、突発性難聴、歯痛、血圧上昇、不整脈など体のあちこちに不調は起こった。寝ら

れない日も数知れず。それでも診療は続けていた。それは他の職員も同じであった。

印象に残っているコロナ感染患者さんがいる。元々担当の患者さんで、知的障がいを持つ娘さんとその老母。二人とも感染しコロナ病院に入ったが「静かには過ごせない」ため転院させられ、さらには早期に退院させられてしまった。感染リスクはなくなったものの呼吸苦の症状が続き来院。高齢のお母さんは長期の外來治療が続いた。

また、第3波でコロナ病床がひっ迫していた時期に感染し、コロナ病院に入院したインスリン治療中の糖尿病患者さん。比較的安定しているからと、次の重症患者さんにベッドを空けるべく早めに退院させられた。インスリンもなく自宅で全く動けず、やっと来院できた日には、糖尿病の数値が入院レベルになっていた。が、コロナ感染直後で入院させられず、連日外來でインスリン調節をして対応した。他にも味覚障害など後遺症が長期に続くケースが多く、感染後の治療の重要性を感じている。

## 長年のキャリアが見抜く感染者の兆し

コロナの症状は発熱しているケースだけではない。「思わぬところから陽性者が出ることもあるんです」とマディーンさん。

「食欲がない」「だるい」「食べられない、味覚がおかしい」みんなコロナの疑いだ。咳も出ないし呼吸が苦しくもないのに何か変だ、という人にCTを撮ると肺が典型的なコロナ肺炎という場合もある。

そんな時にも診察開始する前から「この人なにかへん」というのを察知できるようになった。そういう場合には各検査室に連絡して、皆フル装備。検査後は完全消毒。それで院内感染は防ぐことができる。

「どうしてわかるんですか？」と聞くと、「長年のカンとしか言えない」という返答。経験というのはすごいことだ。

## 医師としてこれからも患者さんとともに

コロナ禍でも嬉しいこともあった。2020年夏前の、まだマスクが不足していた時期、ある特養からN95を含むマスクが大量に寄贈された。それまでは週2枚の支給品を洗濯しながら使用していた。新品の匂いがあった。また、食品メーカーからピザや大学芋などの差し入れをいただいたこともある。「美味しいね」と同僚たちと一緒に食べた。

月1の定期受診に来る患者さんから、「先生死ぬなよ」と逆にエールをもらったりもした。この3月で浅草寺病院を離れるのを、患者さんたちは寂しかったのでは？

「『そうか、先生も齢だからな』って意外とさりりとしてました(笑)」

逆に気がかりなこともある。この1年、比較的若い担当患者さんの孤独死が例年よりも増えてしまった。例年はいても1人か2人、2020年は5人もいた。コロナの影響は否定できない。

そして医療現場はコロナ対策で人手不足。過重労働にあえいでいる。加えて病院側も経営が苦しい。感染を恐れて、薬の長期の処方希望、受診回数を減らす人も多くなり、診療報酬が減ってしまう。倒産防止へのプレッシャーもあり、さらに医療従事者は苦しくなる。

それでも、マディーンさんは医師を当分続けていくつもりだ。それは80歳過ぎまで小児科医を続けていたお母様の姿を見ていたこともあるようだ。

「70代の、自分で自分のことが見極められるうちには辞めたいと思っています」まだまだいけますよ！ マディーンさん。



浅草寺病院退職時に贈ってもらった似顔絵とともに。



# 常に明るく前向きに! 発想転換して地元貢献

北澤秀彦さん(99回生) ●株式会社開拓使 代表取締役

## 創業7年で八王子エリアに 4店舗展開

北澤さんが八王子に1店舗目を出したのは2013年。勢いで出店したこと、結婚、家の購入などが重なり貯金ゼロからの出発。最初の1店舗目は立地も悪くお客様にも恵まれていなかった。そんな時に来店したお客様から「野菜の焼き方が違う」と指摘され、お詫びにいくと、なんと地元の農家さんだった。お詫びついでに正しい焼き方を教えてもらった。さらにそのついでに畑も見せてもらった。その時、閃いた。

「八王子の野菜が食べられる店」にしよう! このコンセプトが徐々に話題となり、店も軌道に乗り始めた。2年目に2店舗目、3年目に3店舗目、5年目に4店舗目。今や「地元の野菜を食べるなら『けいの家』」ということで、八王子の有名店のひとつとなっていった。

## 緊急事態宣言中 即座に打った、さまざまな仕掛け

6年目となった2020年当初。宴会に特化した戦略も奏功し、業績も順調だった。そこにコロナの猛威が容赦なく襲ってきた。宴会はできなくなり、もともとビジネス客が多かったために一時期は売り上げも7割減。多店舗展開のため、人件費、家賃などはかかってくるため通帳の残高は減っていく。

1回目の緊急事態宣言が発出され、経費節減のために休業する店も多い中、北澤さんの中に店を閉めるという選択肢はなかった。早期段階から時勢に即応した仕掛けを打っていった。

「自分たちのコロナウイルスに対するスタンスやビジョンを伝えつつ、食やサービスを通じて地域の役に立つ事をしよう」学校も休校となり、親も子もストレス増幅。買い物も食事も不便な日々、美味しいものを食べたいという気持ちに少しでも応えたい。行動は早かった。

新鮮な美味しいお刺身でんこ盛りでコスパの良いお弁当の販売。SNSで写真を掲載するとお客様が殺到。八王子でいちばん売れているお弁当と話題になり、多い時は一日150食も売れた。

また、店内の感染防止対策などもこまめに発信。研修の様子などもアップし、安心安全もアピールした。

「店に来られないならこちらから出よう」と、「出張宴会」なるサービスも始め、会社や個人宅に出向いていった。

## コロナで苦しいのはみんな同じだから笑って、前向きに

北澤さんがコロナの時期に心掛けていたことがいくつかある。

そのひとつは「発信」である。

Facebookは、開業当時から実施していたが、コロナ期になってからは発信の頻度を多くした。お客様が店に来られない分、店からの発信は今まで以上に必要と考えた。「コロナで苦しいのはみんな同じ。明るく前向きな姿をアピールしたい」ということで、店舗スタッフを相方にした漫才も、定期的にYouTubeに上げるようになった。もちろん脚本は北澤さん。お客様からも「見たよ」とか「YouTubeに出てた人だ」と言われることもある。従業員さんからの反応は? 「やってみると楽しい、とされています」

もうひとつは「自社のブランド力、看板力を高めていこう」という意識だ。

お客様の来店が減るとただでさえ技術が落ちる。今まで以上に料理、サービスを完璧する、良いものを出そうという意



ブルー・グリーン賞受賞式にて。



### PROFILE

きたざわひでひこ/茅野北部中学出身、専修大学入学と同時に上京。若くして大手居酒屋チェーン店で35店舗を任されるエリアマネージャーとして活躍し、35歳で起業。八王子エリアに居酒屋「けいの家」を4店舗展開。起業7年目の2020年多摩エリアの企業経営者に贈られる「ブルー・グリーン賞優秀賞」受賞。

識をもって仕事をしていこう、ということ常にはスタッフには伝え、それぞれに努力を促すようにしている。

「漫才をする社長」と「商品、サービスには厳しい社長」それが北澤さんのバランスなのだ。

## 新しいビジネスモデルとして表彰

2020年12月、この北澤さんの取り組みが評価されることとなった。地元銀行の主催する第18回多摩ブルー・グリーン賞「優秀賞」を受賞。経営部門において、北澤さんの掲げる「中庸な外食」という、時勢に応じ感染対策と顧客サービスをバランスよく両輪で進めていく経営方針が、「新しいビジネスモデルにより地域経済の発展に貢献した」として表彰された。北澤さんは受賞のお知らせとともに、早速コースメニューをSNSに掲載した。その名も「ブルー・グリーンコース3,800円(税別)」。お見事!

今、北澤さんが実感していることは「お客様が来てくれるありがたみ」だ。まだ感染が落ち着かない中でも来店してくれる。それまでは普通のことだったが、今は心からありがたさを痛感する。だからこそ、質の高い料理、サービスの提供そして、徹底した感染への対策でお客様やスタッフを守るのが経営者の役割だ。そんな原点にコロナが気づかせてくれた。

## コロナ禍で見出した

特集  
3新しい自分  
新しい挑戦  
新たな発見

コロナ感染拡大によって、「不要不急外出制限」「テレワーク」「濃厚接触」「クラスター」「ソーシャル・ディスタンス」など、今までに使ったことのない用語が飛び交い、経験していなかった行動を強いられることになりました。そんな現状の中から、新しく自分なりの価値観を見出し、さまざまな挑戦を始めている同窓生のみなさんから、寄稿をしていただきました。

オンラインで広がった  
出会いの機会

心理カウンセラー・子ども相談室「モモの部屋」主宰  
内田(有賀)良子(64回生)



ミヒャエル・エンデの作品「モモ」にあやかって、子ども相談室「モモの部屋」を開設して23年。新型コロナ以前は杉並区の一隅で子育て、登校拒否・不登校、ひきこもりなどの相談交流会を開いていました。来談者は東京・神奈川・千葉・埼玉から足を運んで来ます。コロナ感染者が多発するエリアなのでリアルな相談会は休会にし、電話相談に切りかえました。事態が長期化する中、ZOOMによる相談会の誘いがふたつ入りしました。パソコンやスマホを使いこなす世代が参加して、一気に来談者が若返り広域化しました。80・50問題に悩むひきこもりの親世代は残念ながら蚊帳の外ですが、10～40代の当事者の参加があり、コロナだからこそ出会える機会になっています。

コロナで思ったこと  
—社会の姿—

会社役員  
原 秀男(73回生)



数年前、社内の記念式典でMCを務めた、そのグラレコと一緒に撮ったのが、掲載写真だ。自分のコミュニケーションタイプはプロモータータイプ、人々を結びつけることにより、集団の新たな価値を創る。

高校の時から、マルクスの「類的存在」を追うことが、自分のObligationと感じている。コロナでScopeが変わった。生産共同体が「類」を守れない。病原菌が共同体を破壊しているのに、感染者や予備軍がまるでゾンビのように扱われる。類的存在の脆い辺境が崩れると共に、本質が見えてきたと思った。家族や友人はゾンビでも「類」を守る。「究極の心理的安全性」が、類的存在の中核にあると思う、今はそれを追っている。

## コロナ禍に思う。



樋口祐三(57回生)

八十年前、私は軍国少年だった。少年航空兵として敵艦に体当たり、と本当に思っていた。国民は非常時に勝つという一点に総力を結集していた。

今も非常時だという。見えざる敵という点でコロナの方が厄介かもしれない。

しかし、人々の心構えはどうだろうか。緊急宣言に飽きた国民は夜の公園で立ち飲みし、政府も行政も知恵がなく、みんなで国を守ろうという気概もない。ファシストが現れるのはこういう時か。用心用心!

似非右翼引込めと言われないうち、この辺で失礼します。次はもっと柔らかいテーマでお会いしたいですね。

コロナに負けないぞ!  
～体を鍛える～

植松高志(72回生)



私の生活はコロナ禍で大きく変わった。定年後10kgも体重が増えていて、趣味の登山ではすぐ息が切れる有様。免疫力を高めるには体を鍛え健康を確保しなくてはならない。

一念発起し、定年時の体重に戻す「ダイエットに挑戦」することにした。同僚から「先ず歩く、毎日1万歩」のアドバイスをいただいた。昨年6月から車に乗らず、とにかく歩くことにした。スマホに歩数を記録し体重計に乗る。6月から今年3月までの10か月間累計は、歩数(4,923,447)距離(3,247km)体重(80kg→71kg)。目標達成。月1回の登山も先頭に立って歩き爽快感を味わえるまでになった。「人間万事塞翁が馬」ともいえそうだ。

コロナ禍で気づく、  
あみぐるみ人形の可能性

ワンコあみぐるみアーティスト  
眞道(宮坂)美恵子(83回生)



家族の一員である愛犬の「あみぐるみ(毛糸で編んだ人形)」を制作しています。ハンドメイドの作家の多くが、コロナにより、対面での販売や作品展示の機会を奪われてしまいました。しかし、リアルな場でしか伝えられない、という思い込みから発想を転換。手芸は動画との相性がよく、オンラインレッスンでも、遜色ないことに気づきました。また、手仕事はマインドフルネスの効能があることも、再認識されています。

時を同じくして、「抱っこしたくなるあみぐるみワンコ」を初出版。コロナ禍だからこそ「自らの手で作り出す喜び」「愛犬との絆」を伝える、あみぐるみ人形の可能性を感じています。

## パラドックスの発見 ～コロナは国際化を加速させる～

税理士法人フェアコンサルティング代表  
細田 明(86回生)



みなさまはコロナが国境を封鎖し、人々の往来を制限し、閉鎖社会を作る元凶のように考えていませんか。私は国際ビジネスを支援する職業専門家として、これとは異なる捉え方をしています。

コロナ前、外国へ出張・旅行する多くの日本人は、外国にいる緊張感を感じながら、不慣れな外国語で外国人と会話をしていました。しかし、コロナ後はインターネットを通じて外国のどこの誰とも、何時でも気軽に会話をするのが当たり前前の時代となりました。私のビジネスを心配してくださる方に、私は「お陰様で海外がますます身近になりました」と話して、不思議そうなお顔をされるのが今は楽しみのひとつです。

## コロナ禍で 改めて確認できた家族の絆

フリーライター・翻訳家  
中村(岡)真由美(88回生)



我が家は夫婦2人がアメリカ、成人した子どもたち2人は日本で生活している。この1年以上の期間、コロナ禍で家族が顔を合わせる機会は失われてしまったが、その分LINEやメールでお互いの気持ちを素直に伝えられるようになった。

現在4月末から8月半ばまでの予定で日本に滞在しているが、子どもたちが何度も会いに来てくれるのが本当にうれしく、一緒に過ごす時間が心からありがたいと思えるのは、コロナのおかげかも知れない。健康も、そして家族が共に過ごす時間も、決して当たり前ではないのだということ、しみじみ実感している。そして8月半ばには再びアメリカに戻り、夫と2人、キャンピングカーで全米を回る予定だ。

## 休日さんぽ

化学メーカー勤務  
鮎澤 茂(88回生)



テレワークも常態化し、電車混雑も緩和、通勤時に目に入るようになった街並みを見ながら、ふと先日定年退職された先輩は、旧街道歩きが趣味だったことを思い出した。

思い立ったが吉日。休日を利用して、先ずは日本橋から中山道を北上、安中宿までテクテク、続いて東海道を小田原宿までトコトコ歩いた。織細さんには返信のタイミングも気掛かりな在宅勤務が続くが、先達が残したコミュニケーションに関する助言はどんな環境下でも有効、朴訥でも伝わる言葉を選び、気にし過ぎず気に掛け、心に余裕を持ちながら、コロナ禍を乗り切りたいと思う。秋には両街道初めの峠を越える計画だが、その頃にはコロナも峠を越すことを願っている。

## 自分を見つめ 新しい仕事に挑む

小学校勤務  
久保田真理(88回生)



昨年10月に30年勤務した東京の食品会社を退職しました。コロナ禍で会社が事業縮小することになったためです。4月からは木曽の小学校で働いています。退職は涙の決断でしたが、この転機を得たことは幸運でした。失業期間中に自分のできること、したいことを時間をかけて考えることができ、周囲の人に支えられ、人との関わりの大切さも知りました。

なかでも、同窓生に感謝しています。連絡を取っていなかった方でも、親身になったアドバイスをくださり「真理ちゃんなら、こんなことができると思う」と言ってくれた言葉で、今の仕事への道が開けました。悩んだ期間を経て、新しい挑戦が来たことはコロナ禍でも、私にはよかったです。

## コロナ禍でわかった 不要不急な話のありがたさ

コンサルティング会社勤務  
齋藤(後藤)理恵(97回生)



最近、自分の話がつまらないのです。オンライン・ミーティングやたまにしか話せない方と会話をするとき、つつい意味ありげな体のいい一般論に終始してしまうのです。

人からお説教や自慢話を聞く機会もなくなりました。たぶん、話し手がわざわざこの場で話す話じゃないと判断しているのでしょう。会話の量が減っていることで用件を効率よく伝えるスキルは上がったかもしれないけれど、酒場でするバカ話、無駄話の中になんともいえない人情を感じたり、人の“味”のようなものが滲んでいて、そういう人間味を直に感じることで勇気づけられたり、赦されたりしていたように思います。不要不急の贅沢な無駄話ができる日常が早く訪れますように。

## コロナ禍の思わぬ良い効果

メーカー勤務  
畑中美帆(114回生)



2020年は大好きなドライブに行けず、楽しみにしていた旅行やイベントも軒並み中止となりガッカリすることが多かった1年だった。しかし振り返ってみると、遠出ができない代わりに新しいことにチャレンジすることができた年だったと思う。

かねてから興味があった狩猟免許(罟)の取得や、趣味のマンガ制作のデジタル化を実現し、現在はバイクの免許を取得するべく近所の教習所に通っている。今はコロナ禍を生き延びたら、あれがしたいこれがしたいと、想像を膨らませる日々である。ちなみにバイクは危ないからと両親に猛反対されているので、知人の方どうかご内密にお願いいたします。

## 「禍を転じて福となす」 同窓会活動

会長 はら たかし 原 大(73回生)



まずは、昨年来のコロナ禍により心身共に多大な負担を強いられ、不自由な生活を続けておられる東京清陵会の会員の皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。本稿を起稿の今も、第4波の襲来による3回目の緊急事態宣言が発令され、新たな変異株の感染拡大に日々神経を尖らせて暮らしている状況です。

このような状況下、残念ながら既に1年以上東京清陵会としてのリアルでの活動を全く行うことができずしております。そしてまた、昨年3月に東京オリンピックが「1年程度」の延期とされたこともあり、コロナ禍も1年もあれば収まるものと思っておりましたが、オリンピックと同様10月に予定の今年の総会もまた開催が危ぶまれる状況です。ワクチンによる局面打開を期待しておりますが、世界的にも極めて劣勢にある我が国のワクチン接種の目詰まりが、この東京清陵会だよりが配布される頃には完全に開通していることを願うばかりです。

一方、リアルでの活動ができない中、「ミドル交流会」、「女子会」、「働くことを考える若手の会」などの活動をやむを得ずオンラインに切り替えて開催いたしました。ご担当の皆様の、まさに“禍を転じて福となす”ご努力をいただいております。就中、毎偶数月に開催の「清陵勉強会」はオンライン開催により、会場の確保やコストなどの負担が軽減された上に、参加ハードルが下がって参加層が拡大するとともに、諏訪の本部はもちろん、他支部からの参加も可能となり、同窓会活動の発展形のひとつを予感するものとなっています。

もちろん、リアルでの直接に顔を合わせての交流や研鑽に、オンラインは得難い感動や啓発への刺激が期待できます。よってコロナ禍を奇禍として、今後はリアルとオンラインのハイブリッドをベースとして、会員の皆様の同窓会コミュニティに対する思いに濃淡はあるものの、まずは青、壮、老の各層で、より一層参加しやすい環境を整えて参りたいと思います。加えて、魅力ある同窓会コミュニティに向けて、現在事務局では「三つの新しい構想」を検討いたしておりますので、本「東京清陵会だより」でご詳覧ください。

高齢者雇用安定法の一部が改正されこの4月1日から施行されています。いよいよ70歳定年が現実味を帯びてきており、まさに人生100年時代です。東京清陵会が、会員の皆様の長い人生の各ステージを実り多いものとするための一助になるとともに、故郷の小・中学生にとって諏訪清陵高校の総合力としての魅力の一助にもなるよう、皆様のご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

## ご挨拶と雑感

副会長 もろすみひろふみ 両角寛文(78回生)



東京清陵会の副会長に就任させていただきました78回生の両角寛文と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。諏訪中学の出身で、高校時代は放送委員会に所属しておりました。清陵祭で体育館にて放送劇を上演したこと、ラジオ局主催の番組コンテストに参加したこと、何より放送室で雑談やトランプに興じたことが懐かしく思い出されます。

卒業以来、同窓会・クラス会には全く参加しておりませんでしたが、ちょうど10年前、東日本大震災のあった2011年に、当番幹事学年の会報作りに引っぱり出されたことがきっかけとなり、以後、いくつかのイベントに関わらせていただきました。具体的にはミドル交流会でのパネリスト、清陵勉強会での講師、附属中学生の企業見学などです。特に企業見学は、会社の清陵OB・OGが忙しい中、役割を分担し、企業活動の実態や働くことの意義を理解して貰えるように、できる限り対応いたしました。中学生からいただいた礼状を読んだ時は、一同、母校との絆を強く感じました。

還暦をとうに過ぎた私にとって、清陵の3年間は遙か昔のこととなりましたが、振り返れば、その後の人生の礎となる価値観が形成された時期と感じております。それは「自主独立の精神」です。3年間、先生方からあれこれ言われた記憶は一切なく、自由気ままな時間を過ごしましたが、一方で自ら考え自ら判断し、自己の責任において行動することを学びました。上京して早46年、この間、何とかやってこられたのはこの教えのお陰であり、それ故母校には大変感謝すると共に、現在も格別の愛着を持っております。

ところで昨今は、情報通信技術の進歩により人的なネットワークは格段に拡がりましたが、人間関係の親密度は寧ろ希薄化しつつあると感じます。特に首都圏ではその傾向が強く、更に新型コロナウイルス感染拡大が拍車を掛けました。実はこうした広くて緩い人的ネットワークこそ心地が良い、と感じている人は意外に多いのではと思います。一方で、昨年来テレワークやWeb会議が日常となり、外食や飲み会を自粛する中で感じたことは、「face to faceで話をしたい」ということでした。私は東京清陵会の「交流」「研鑽」を目的とした活動はまさにこうした時代のニーズにマッチしたものだと思いますし、私自身は「母校の生徒支援」にも、少しでもお役に立ちたいと考えております。

# 同窓会で お会いしましょう

副会長 よねざわ こ 米澤あ子(80回生)



2021年度から東京大学の新執行部体制で女性が男性を上回るようにするという記事が目にとまった朝。オリンピック組織委員会の騒動があり、日本の既成概念ってまだこんななのかと残念に思っていた矢先でした。ダイバーシティ、ジェンダーが言われ、かなりの時間がたっていたはずなのに、ようやく、意識ってなかなか変わらないのだとつくづく感じました。皆様はこれらの報道をどのように受け止めていらっしゃるのですか？

この度、副会長を拝命いたしました80回生の米澤あ子と申します。このような機会を与えていただき感謝いたします。思えば学年幹事になるまで、同窓会との関わりはありませんでした。総会、清陵勉強会を初めとした同窓会のさまざまな企画に参加しているうちに、90~50代の魅力的な同窓生をロールモデルに、そして先進的な知識を持った若い方々から刺激を受けて、新たな気づきがありました。

現在、私は多摩地方の療養型病院に勤務しています。人類史上未知の超高齢化社会を迎えるにあたり、近年は、医師のトップダウンによる医療ではなく、多職種協働で患者中心の医療体制構築に移行し、患者ひとり一人が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう個々の職種が専門分野に責任を持ってアプローチしています。多職種協働においては、スタッフ同士(医師、看護師、リハビリ、栄養士、介護士、社会福祉士、薬剤師等)は、まずこの患者が自分の家族だったらとの思いを胸に、職種として最善の提案をします。提案は、重ねた経験や知識は大切ですが、基本は専門職としての日頃の研鑽が必要とされます。

母校はこれまで同窓会における女性比率は低く、参加のハードルが高くなりがちでした。現役学生の男女比が等しくなっていて久しく、また人生100年時代を迎え、学業、仕事、子育て、介護、地域活動、社会貢献と幅広いフィールドで活躍する皆様の情報交換、自己研鑽の場として、あらゆる年代の多様な同窓生と交流できることは、大変有意義であると考えます。

本年度はまだコロナ渦にあり、対面の会合設定はなかなか難しいですね。この逆境にあってもオンラインを駆使した活動の継続には目を見張ります。そして近い未来、直接お会いできるのを楽しみにしております。その時は是非、お声をかけてください。皆様の同窓会参加を心よりお待ちしております。どうぞ宜しくお願いいたします。

## 事務局より連絡

### 1. いろんな「清陵会」大募集

- (1) 趣旨：コロナ禍でこそ、清陵人の絆を大切にしましょう。職場、職種、地域、趣味、小さな気軽な集りをスタートしましょう。
- (2) 要領：何かの繋りで3人集まれば、「清陵会」です。事務局に「清陵会」としてメールください。会報、HPで集り、活動をお伝えします。

### 2. 「新しい三つの構想」情報を募集します

#### (1) 「キャリア講師」登録者募集

- ①概要：母校のキャリア教育に協力すべく、同窓生の講師を派遣しています。10分野で10人。例年10月ごろの開催で、本年はコロナ禍でオンラインですが、その前は学校に行っていたご講義していただけます。土曜日の午前中です。学校または同窓会本部から交通費・ホテル宿泊が必要な場合は、一定額実費・薄謝します。
- ②応募：30歳代を中心に募集しています。103~112回生ですが、その上の世代(93~102回生)でも可能です。HPの事務局アドレスに、「キャリア講師登録」としてメールください。  
・氏名・回生・所属役職・仕事内容など、簡単にお書きください。
- ③依頼：リストに登録し、学校・生徒の要望に合わせて、講師を依頼します。登録しても必ず依頼があるわけではありませんので、承知おきください。

#### (2) 「同好会」募集

- ①狙い：同じ趣味関心を持つ同好の士の集まりによる、継続的に活動するコミュニティを募集します。
- ②応募：複数学年から構成される数名の発起人に起案ください。HPに応募用フォームを準備します。事務局アドレスに、メールに添付して応募ください。
- ③活動：21年度はトライアル活動、22年度から正式活動いただくよう、会報・HPで紹介、活動費補助も検討します。

#### (3) 「ライフシフター」募集

- ①狙い：人生100年時代のシニアの新たな活躍に着目。世代別活動のないミドルシニア(50才前後)世代に向け、生き方・働き方を変えて(ライフシフト)、セカンドまたはサードキャリアを生き生き過ごされている同窓生を紹介しします。
- ②具体例：新たに手に職・資格を活用、趣味を仕事に、社会貢献、プロボノ(専門性を活かしたボランティア)などのライフシフト。
- ③募集：まずは、HPの事務局アドレスに「ライフシフター」自薦他薦としてメールください。事務局で拝見・検討して、寄稿・取材により会報・HPでご紹介させていただきます。

### 3. 同期会活動報告

- (1) 狙い：当番幹事で盛り上がった後の活動維持のレベルや具体的な活動の参考に同期会活動を紹介しします。再結束の場としてもご活用ください。
- (2) 掲載順：数年前から当番幹事20年・10年後の学年に登場(寄稿)いただいています。来年は70・80回生、再来年は71・81回生です。学年幹事の方にご依頼いたします。
- (3) HP：その他の学年の活動はHPに掲載しますので、HPの事務局アドレスに「同期会活動報告」としてメールください。よろしくお願いたします。

## 追悼

寺島敏郎さん  
(50回生)

## 寺島敏郎 元会長を偲んで

寺島敏郎元会長は、満開の桜の季節に令和3年3月30日、八十九歳にて生涯を閉じられました。

ここに、心からの哀悼の意を表します。

寺島氏の東京清陵会での功績は会報で周知のことなのですが、氏はたびたびの会議の中でメモを取り、会員の発言を途中で遮ることはなく『聞く力』をお持ちでした。

女性の集いにも参加され、「僕からと言わずに」と寸志を下さいました。

私は、会とは別に寺島氏の思い出される一面を書かせていただきます。

氏のご生家は私の生家近く上諏訪の桑原町にあり、氏のご長男で六人の弟妹です。敏郎氏、皓二氏、亮三氏はこの2年の間にご逝去されてしまいました。お三方ともご生家への力添えを長い間されておられました。

敏郎氏は趣味が多く読書、クラシック音楽(数え切れぬ程のレコード収集)、映画鑑賞(フーテンの寅さんは好きだった)、切手収集、古典落語。

退職後は、書道教室に通われ腕を磨き、後年、少し難聴になられてからは手紙のやりとりをし、末妹の弘子さんと私が長い付き合いをしていることをとても喜んで下さいました。

娘さんの純子さんは、父は自分の時間を充実させながら家族にもたくさん愛情を注いでくれた。晩年お世話になった施設や病院でも常に「ありがとう」を欠かさなかったとお伝え下さいました。

私は、温厚でどっしりと構えられていた寺島敏郎氏の傍らで「癒し」をいただきました。ご一緒させていただいた年月を光栄に存じます。(66回生 生越万理子)

## 寺島敏郎さんのこと

私の東京清陵会との出会いは寺島さんとの出会いからである。私が早稲田大学に合格した際、寺島さんと同期で親友である伯父(栄二 50回生)の二人にパレスホテルの中華で歓迎会をしていただいた。それをご縁に、大学時代には、法律書を寺島さん経由で注文させていただき、神保町の岩波書店に受け取りに行くたびに、近隣でカレーライスをご馳走になり、いろんな話をお聞きした(人名録で岩波茂雄について寄稿したのは寺島さんだ)。

父(幹雄 52回生)によれば……

<寺島家とは祖父の代から親交があり、父は敏郎さんに本当の弟のように可愛がっていただいた。敏郎さんが岩波書店に入り、神田の独身寮に居た頃、父が大学受験の予備校に行く際にその寮にも泊めていただき、音楽喫茶に毎晩のようにつれていってもらい、クラシック音楽と一杯のコーヒーで、勉強の進めぬ父の気分転換をしてくれた。今でも父がクラシック好きなのは、その時

の影響だ。ちなみに、その喫茶にはミドリさんという美しい女性が働いており、いま思うと敏郎さんが覬<sup>ひら</sup>んでいたのかもしれない。敏郎さんは、本部同窓会総会や幹事会にも欠かさず出席され、そんな折は必ず我が家に立ち寄られ、祖父の好物の「さゝまの最中」を祖父が亡くなってからも土産にお持ちいただいた。博学な敏郎さんとは、本、芸術と話題が尽きず、談笑のひと時を過ごせた。敏郎さんは非常に達筆で、手紙・ハガキもよくいただき、末尾には「美子さん(私の母)によろしく」と添えられ、温かい人柄に、敏郎さんが寄られると母もできる限りの歓待をした。レコードの収集も豊富で、いま手元にはいただいたテープが30本以上ある。母校や故郷の諏訪をこよなく大切に思っていた敏郎さんだが、晩年、施設に入れられ、諏訪に来られなくなった。糖尿病で「さゝまの最中」は控えているが、テープを今でも懐かしく聴いている>

私が学年幹事をして東京清陵会にかかわるようになった時期には、寺島さんが会長をされていた。私が常任幹事となり、ワーキンググループを立ち上げた時には、「譲君がいるから、東京清陵会はあと10年安泰だ」と持ち上げていただいた。「私は顧問も引退するが、譲君、後は頼むよ」と電話をいただいたのが最後になった。僭越ながら、同窓会活動での遺言としてお聞きした。10年にはまだあと2年ある。遺言は守られないといけない。達筆な年賀状が来年はもう届かない。諏訪の両親ともに、衷心よりご冥福をお祈りする。(82回生 北原 謙)

## 追悼

林 尚孝さん  
(52回生)林 尚孝先生を悼む  
「清陵バカ」を自認し、  
同窓会を牽引する

林先生は「友人が俺のことを『清陵バカ』と呼んだ」とおっしゃるが、まんざらでもない様子で、時には自ら「清陵バカ」と称し、「私を育ててくれた諏訪清陵高校と同窓会に多くの時間を割いてきた」と後に述懐しておられる。その言葉通り、東京清陵会の事務局長を10年、その後副会長を経て会長、さらに異例ともいえる本部同窓会長まで、20年の長きにわたって同窓会を牽引された。

林先生が東京清陵会会長の頃、特に記憶

に残る事項を紹介しておきたい。2002年3月に発行された東京清陵会名簿「人名録」は、氏名・住所等に加えて、生年月日、メールアドレス、親族の同窓生の名前、自己の経歴・コメントなどが記載され、「読む名簿」を目指したと序文に書いておられる。すでに当時プライバシーの観点から名簿発行を控える風潮すら出始めていたし、役員会で反対意見も出たが、すべて承知の上で発行に踏み切った。読んで楽しいユニークな名簿が出来上がったが、今のご時勢では二度と刊行できないだろう。

2001年の当番幹事68回生(春山君、小林君ら)が東京清陵会だよりで第一校歌の作詞者・伊藤長七の特集をテーマとした。長七が府立五中(現・小石川中等教育学校)の初代校長であったことから同校同窓会(紫友同窓会)とのつながりができた。2002年には35回生・故矢崎秀彦さんの「寒水伊藤

長七伝」が刊行され、紫友同窓会から表彰され、ますますつながりが深まった。紫友同窓会と東京清陵会のトップで「寒水会」結成の話が実を結び、長七の教育論などの勉強会や研究フォーラムを開催した。同窓会の仕事ではないが、小平克さん(58回生)の森鷗外研究に興味を持たれ、共同研究者として、林先生自らも2005年4月に「仮面の人・森鷗外」を出版、注目された。科学者としての目で事実を見つめ、私情や思い込みを排除した冷静な研究姿勢と分析が多くの鷗外研究者に受け入れられたのだと思う。

先生が入院されたとお聞きしたが、コロナ禍でお見舞もご遠慮申し上げているうちに訃報が届いてしまった。天上の世界で、先立たれた最愛の奥様と一緒に楽しくお過ごしになられておられることを祈るのみである。

合掌

(59回生 小川勝嗣)

## 同期会活動紹介 ~68回生~

## 68回生まだまだ元気です!

私達68回生が東京清陵会の当番幹事を引き受けてから、はや20年になります。当時の会報は私と春山明哲君、小林盛男君で編集を行い、特集は第一校歌作詞者の伊藤長七氏の生涯を辿るコラム、写真家・木之下晃氏へのインタビューでした。車で諏訪から小諸まで旅をし、伊藤長七氏の足跡を訪ね、諏訪湖畔の高島家家老の末裔塩田氏にインタビューしました。校歌は諏訪中学発足間もない3回生が応募し伊藤氏の歌詞が第一校歌に採用されたそうです。その歌詞には明治の諏訪の状況がよく出ています。

68回生の同窓会は34年におよび、この間はほぼ毎年、夏季にさまざまな会場で開催して来ました。2015年には諏訪清陵会と合同で「鷲の湯」で53名の出席の下盛大に行われました。私達も70代半ばになり、他界した人も何人かいますが、この同窓会は続けていきたいものです。

20年という歳月は社会にものすごい変化をもたらしました。特にIT関係の進展

は目を見張るものがあります。<sup>ガーファ</sup>GAF<sup>A</sup>やLINE等はいうにおよばず、ロボットが活躍する社会へと変化しつつあります。先日宿泊したホテルではロボットが飲み物を運んでくれました。大変便利な世の中になってきました。

でも、それとともに社会や人間関係も変化してきました。無責任やギスギスした人間関係になっていないでしょうか？ 私達の青春時代は戦後の昭和の真只中にありました。昭和30年代を小学生から高校生まで学生として過ごしました。先生方も皆教育熱心で、宮川に入って川遊びをしたり、図書室で本を読んでくれたりしました。

皆が仲良く、特にいじめのようなことはありませんでした。まさに牧歌的な世界がありました。ドラえもんやジャイアンがこの時代にタイムスリップして、帰って来なかったという逸話もあります。私は何とかして、ゆったりとした、やさしさのあるそして希望に満ちたこの昭和30年代を取り戻すことができないのか、と日々夢想し

ています。

私の勤務先は虎ノ門でした。若い頃は仕事が終わった後よく新橋へ行き、先輩や同僚と安酒を飲み歩いたものです。ですから酔っぱらって羽目を外すこともあり、まさに昭和のおじさんそのものでした。今でもその当時から通っている飲み屋もあります。今後残したいものといえば、私は路地、横丁、銭湯を真っ先に挙げます。

技術の進歩はいいことだと思います。ですが、人間はデジタルではありません。技術と社会が融和し、次の段階に昇華する(ヘーゲル)こと、これこそが唯一の道であると考えます。(小島一郎)



2017年に行われた同窓会。

## 同期会活動紹介 ~78回生~

## 諏訪力が歴史を変える

78回生は、どうやら歴史の変わり目に立ち会うことを運命づけられているようです。2011年の幹事学年当時は、東日本大震災の直後でした。われわれは本誌において「特集・いま、僕らにできること」と題し、第一部では気仙沼で歯科医院を営む渡辺律君に取材し、被災地の実態と肉声を伝えました。第二部は日本テレビ放送網の川村益昭君、KDDIの両角寛文君、セイコーエプソンの伊藤高光君の鼎談で、各社の震災対応経験に基づく提言を行いました。そして第三部では「三沢勝衛の原点へ——農の明日を語る」と題し、宮原佳彦・東条清秀両農学博士が、震災以前からのわが国農業の荒廃に対する提言を行いました。

本部総会の企画にも積極的にかかわり、会報で「検証、諏訪力」を特集し、総会では談論会「諏訪力——世界を変える僕らの原点」を開催しました。この時の高見俊樹君と筆者による基調講演は好評を得、一般市民対象の「アンコール講演」となり、以後、元校長・石城正志君肝煎の「諏訪力講座」へとつながりました。諏訪信仰研究団体「スワニズム」会誌の発刊も同時期で

す。アクションは今に続いているのです。

それで何が起こったか。あえて言えば、まだ何も起こっていません。われわれの社会は喉元過ぎれば震災も原発事故も忘れ、失われた20年を30年に延ばしただけでした。失われたのは、ビジョンです。ポストモダンの世界をどう生きるか、そのビジョンがまったく失われているのです。そして今般のパンデミックというわけです。

しかし、10年前が結局はローカルな厄災だったのに対し、今般は全人類が同時に共通の困難に直面しています。歴史が変わるべくして変わるときです。今回当番幹事の88回生は、「諏訪式。」をテーマにわれわれの思考を受け継いで来ています。大いに心強く思います。今度こそ、歴史を動かす何事かが始まらなければなりません。

われわれとは言えば、小尾(奥村)順子君が本部副会長・女性部長となり、活発な活動を続けています。両角寛文君は東京清陵会副会長となりました。直近では元海上幕僚長の武居智久君

が、清陵勉強会にオンライン出講しました。写真はその直後に開催したオンライン同窓会の模様です。オンラインならば本部も東京も、海外ですらシームレスです。学年幹事の足立孝幸君はこれを定期的に開催すると決め、まずは6月26日オンライン同窓会のあと、コロナ禍をテーマに談論会を行いました。以後岩波正恭君運営の「清陵78」サイト等で告知しますが、他学年の参加も大歓迎です。

歴史の変わり目にあたり、われわれ同窓生すべては、母校や諏訪のため、そして自らと人類のために、アンガージュマンを続けなければならないでしょう。(石壁穂高)



清陵勉強会直後に開催したオンライン同窓会の模様。

# 2020年度イベント報告

昨年度はコロナの影響もあって、新卒歓迎・学生交流会は開催できませんでしたが、「ミドル交流会」（一昨年開催できなかった代替）、「働くことを考える若手の会」、「女子会」はそれぞれZOOMを利用したWebで開催されました。今年度も同様にWebでの開催を検討していますが、開催等、決まりましたらHP上にて告知しますので、多くのおみなさんご参加をお願いします。（組織委員会）

## 第6回 働くことを考える若手の会

2020年12月5日（土）、ZOOMを利用したWebで開催されました。メイン幹事を107回・108回の間宮薫さん（医師）にお願ひし、また107回の三井大樹さんの協力を得て、いろいろ企画・準備・当日の進行等を行っていただきました。パネリストには107回生の小林優也さん（医師）、118回生の帯川<sup>おびかわ</sup>恵輔さん（秩父新電力株式会社 需給管理部主事）にお願ひし、自己紹介のあと、現在の仕事について、どんな仕事か、またそのやりがい・難しい点、今後の仕事・キャリアでの目標などを語っていただき、参加者からの質問や意見交換を行いました。以下、幹事の間宮さんと、パネリストお二人の感想を紹介します。

●2020年度の「働くことを考える若手の会」もコロナ影響の多分に漏れず、オンラインでの準備・開催となりました。今回は、日本でも数少ない脳神経内科として活躍する小林さん、政府の2050年ネットゼロ宣言で注目を集める再エネ事業に取り組む帯川さんの、貴重なお話が聞ける機会となりましたが、参加者が十分に集まらず、これを生かせなかったことに悔いが残ります。個人的なつながりで声をかけるという、地道な集客に頼らざるを得ない状況で大変苦労しました。今後、同窓会を円滑に運営し、より発展させていくためには、卒業生メーリングリストなどデータの活用が必須と強く感じました。（107・108回生 間宮 薫）

●清陵を卒業以後、気がつけば15年以上経ちました。将来は生物学関係の研究者になりたいと早稲田大学入学以後、長期休みのたびに、世界をふらふらしておりました。当時はネット環境がそれほどなく、宿にある情報ノートを頼りに、知らない都市を渡り歩く冒険のようなまさに旅でした。旅行会社への就職をと、総

合旅行業務取扱管理者の資格を取りましたが、思い立って早稲田大学を中退。信州大学医学部で医師免許取得以後、スキルアップのため東京、仙台と転々としてきました。現在は長野県に戻り、脳神経内科として勤務しております。専門は脳梗塞であり、特にカテーテル治療を行う奇異な立場にあります。今回このような講演の機会をいただき、自身を見直す契機となりました。identityの形成、探究心などの背景には清陵生としてやりたい放題やらせていただいていた自分がいることに気付かされました。また、他演者の方のお話も、普段は触れないような他業種の内容であり、刺激的であり感化されました。コロナ渦の中、幹事の皆様におかれましては、大変なご苦労あったと考えます。このような機会をいただき、お礼申し上げます。（107回生 小林優也）

●今回このイベントとのかかわり方が大きく変わった回になりました。その理由としては「話し手」として関わるようになったこと。この会で代々「話し手」を引き受けてくださった諸先輩は、社会で活躍されている方々ばかりで、今回社会人1年目の私が大役を担うことに不安がありました。そこで自分なりになぜその仕事を選んだのかを、自分に問い直すつもりでお話させていただきました。仕事についての考えを改めて言語化することにより、改めて向き合い方を整理することができました。この会で話を聞いてくださった方のなかで、わずかでも気づきを得ることがあったとしたら幸いです。（118回生 帯川恵輔）

## ミドル交流会

### 「コロナによる新しい社会と生活様式とは？」

2021年1月23日（土曜日）、本年度当番幹事でもある88回生の企画により「オ

ンライン談話会：コロナによる新しい社会と生活様式とは？」を開催しました。談話会に先立ち、医師で緩和ケアを専門とする神戸大学の木澤義之さん、科学史・科学技術社会論を専門とする獨協大学の野澤聡さんと私（村山）の3名がコロナ禍に感じたことや新しい社会への想いを語り、その後、参加者のみなさんとともに意見交換を行いました。参加者の皆様、告知を含めサポートいただいた幹事の皆様、企画運営の88回生メンバーに深く感謝いたします。

思い返せば、ミドルの会を担当する話は2019年秋の総会時から具体化を進め、2020年3月に「ウルトラマン世代の僕らがこれからやるべきこと」というテーマで講演・セミナーを開催予定でした。しかし、COVID-19の感染拡大を受け、延期して仕切り直しとなってしまいました（この企画の講演部分は、いずれかのチャンスに向け、温めております）。

ただ、第1波・緊急事態宣言という未知の体験は企画のコアメンバー内に現状と未来の不安と希望を語るインセンティブを与えてくれました。オンライン会議でメンバーを一人、二人と増やしながらか「今、感じ、語るべきこと」を共有するうち、「オンライン談話会」の開催にたどり着きました。オンライン会議ツールを活用するにあたり、IT面で参加にハードルが高い方も多いのではないかと懸念もありましたが、58回生から119回生まで70名ほどの事前登録をいただき、諏訪や関西、海外を含め予想以上に多数の参加を得て開催でき、オンライン上でも質疑応答や意見交換を活発にすることができました。

個人的な印象ですが、医師の木澤さんが投げかけた「本当に大切な人との関わり方」の再確認はCOVID-19についての医学的解説とともに多くのおみなさんの心を揺さぶった気がしました。また、野澤さんが解説した感染症を通じた科学への



理解や向き合い方も清陵生のインテリジェンスを大いに刺激するもので、新しい社会の構築と科学技術の関係性についてより深い議論を交わす場を欲している様子を感じ取りました。そして、私の拙いスポーツの話も含め、COVID-19が生活の中にもたらしたさまざまな危機は人と社会の関係を考える契機となり、われわれは引き続きこの時代を語り合い、未来を切り拓くべく動く必要があるのだと強く認識した談論会でした。

(88回生 村山光義)

## 東京清陵会女子会 ＜オンライン女子会＞

# 2020-21年の清陵勉強会

## 新型コロナ禍での清陵勉強会

2020年2月からの新型コロナ禍により、2~4月に予定していた清陵勉強会を中止・延期しました。ICTツールを使えばリモートで開催できることは分かっていたものの、パソコンやスマートフォンを

東京清陵会女子部では、毎年1、2回程度、交流イベントや独自の勉強会などを開催しておりますが、2020年度は、コロナ感染予防という側面から、初めてZOOMにてオンラインミーティングを開催しました。12月19日という年も押し迫った時期でしたが、東京、諏訪、名古屋などからを含め12人の参加。夜2時間程度の交流会でした。

「コロナ期をどのように過ごしていたか」ということで話は始まり、参加のみなさんが、それぞれ日々制約のある中でも、仕事や生活面でも前向きに新しいことにチャレンジしている話を語ってくださって大変励みになりました。さらには

懐かしい地元のソウルフードの話や部活動の話など、同郷、同窓ならではの話題で盛り上がることができ、日常とは違った時間がコロナでの閉そく感の中での気分転換、明日への活力となりました。

なかなか直接集まれないのは寂しさもありますが、オンラインでの交流会は「移動時間なし」「エリアを超えて集まることができる」「チャットなどで文字情報も共有できる」など、日々忙しい女性にとってはメリットも多いです。今後、対面のイベントが開けるようになったとしてもオンラインの利点を生かした開催も十分あると感じました。

(女子部事務局 88回生 佐藤(浜)美智子)

使い慣れていない従来からの参加者にとってはハードルが高く、またセキュリティ等の問題等がありました。しかし、昨年5月19日にZOOMツールのテストを兼ねて74回生の五味克成氏に特別講義をお願いしました。タイムリーな話題

だったこともあり40人近くが参加してくれました。この結果を得て、第180回からZOOMによる清陵勉強会を再開しました(表参照)。現在は、リモート開催の効果で数多くの方が参加してくれるようになっています。COVID-19終息後には従来のような勉強会・懇親会を開催し、同時に配信も行うことで、より多くの方に参加いただけるような仕組みを考えています。

(清陵勉強会世話人 75回生 有賀一温)

表 2020年からの清陵勉強会の講師・講演一覧(2021年6月現在、敬称略)

講演日時	講師	入学回	講師役職・講演タイトル
特別講義 2020年5月19日	五味 克成	74回	薬学者、高輪ファーマサイエンス担当ディレクター 『薬学者から見た新型コロナウイルス』
第180回 2020年10月17日	鳥羽 研二	73回	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター理事長 『フレイルの考え方と予防』
第181回 2020年12月22日	石田 晋也	87回	金融庁監督局 参事官(地域金融行政) 『地域金融の現状』
第182回 2021年2月23日	宮坂 覺	66回	フェリス女学院大学名誉教授、国際芥川龍之介学会顧問長 『芥川龍之介とパンデミック(スペイン風邪)、そして〈諏訪〉』
第183回 2021年4月27日	武居 智久	78回	元防衛省海上幕僚長 『日本の海上防衛-中国海軍と中国海警に焦点を当てて』
第184回 2021年6月22日	五味 克成	74回	薬学者、高輪ファーマサイエンス担当ディレクター 『新型コロナウイルス・ワクチン』
第185回予定 2021年8月24日	岩本 敏男	74回	NTTデータ相談役(元NTTデータ代表取締役社長) 仮『DX:デジタル・トランスフォーメーションとは何か』

## ●清陵勉強会はブログ

(<http://seiryobenkyokai.blogspot.com>)  
および、東京清陵会ホームページ  
(<http://www.tokyoseiryokai.jp/>)  
で案内しています。

## ●勉強会参加希望者の方は

seiryobenkyokai@gmail.comにメールで申し込んでください。一度参加するとメーリングリストに登録されるので、次から勉強会からの案内メールが届きます。



2021年6月22日に行われた第184回清陵勉強会(オンライン開催)五味克成氏講演のZOOM画面。

# コロナ禍で考える 「新しい三つの構想」の方向性

昨年の会報に、「東京清陵会のイノベーションを考える」として、時代を映す三つのキーワードから、当会の三つの目的への取り組みの方向性を示し、三年後にありたい姿のイメージをお伝えしました。その中で、魅力を高める三つの新しい構想を提言。あれから1年、コロナ禍でイノベーションの歩を進めないといけないと痛感します。今回は、三つの構想の環境を踏まえた状況をお伝えし、実現を視野に入れたいと思います。

## 「人材バンク」構想

同窓会の魅力とは何でしょうか。

仲間との旧交を温めたい、母校を支援したい、など、いろいろなご意見があると思いますが、世代を超えたネットワークは大きな魅力だと思います。

2年前、同窓会活動として清陵祭に展示を行った際、みなさんが立ち止まって読まれたのは清陵卒業生で活躍されている方々のリストでした。日本海軍戦艦大和の艦長、大学教授、アナウンサー、小説家から企業人に至るまで、多士済々なリストを、みなさん、興味深く眺めていらっしゃいました。

世代を超えたネットワーク作りをしたいと思います。

現在、企画委員会では、「人材バンク構想」という活動を始めています。

狙いは、各界で活躍されている同窓生をリスト化して、

- ① 同窓会内で広く知らしめること
  - ② 母校支援活動を行うこと
  - ③ 同窓生からのアプローチなどネットワーク作りを促進すること
- という3つです。

リスト作りですが、学年幹事の方に相談しながら、学年ごとに有名人、顕著な実績を上げている方を数名、推薦をいただく予定で進めています。そのうえで推薦された方に連絡をとり、ご了解をいただいたうえで、リストに掲載したいと考えています。

すでに1回生から82回生までのリストは2015年に作成されていますので、今回は82回生から106回生までをターゲッ

トにしています。

【参考】1回～82回生のリストは、「東京清陵会だより」第26号8、9ページをご覧ください。

<http://www.tokyoseiryokai.jp/pdf/no26.pdf>

リストを活用する場面は以下の3つを想定しています。

- (1) 清陵同窓会会報、東京清陵会だよりへの掲載(氏名、回生、所属肩書など)
- (2) 母校支援活動のため母校に提供(研修旅行の訪問先、高校キャリア講師)
- (3) 同窓生からのアプローチ

昨今、個人情報保護の機運が高まり、こうしたリスト、名簿はしっかりと管理しないとイケません。清陵卒業生で弁護士をされている方にも相談、アドバイスをいただきながら、同窓会として安全・安心に行えるよう、リスト管理の仕組みも整備していきたいと考えています。

世代を超えたネットワーク作りを行い、魅力を高めることで、同窓会の活動をさらに活性化していきたいと考えておりますので、ご期待ください。

(87回生 北沢 聖)

## 「同好会」構想

### 1. 背景

これまで、当番幹事制度による「年度テーマ運営」や、行事も開催幹事による「単発運営」でした。同窓生の多様性の発揮や、極力多様なニーズに応える活動として進める一方で、何かテーマを決め

て継続的に学ぶ、コミュニケーションを継続するニーズもあります。コロナ禍でリアルな活動に制約ある中でこそ、つながりを深める意味でトライしていきたいと思っています。

### 2. 基本的方向

世の中に同好会的なものは、住域、職域などいろいろありますが、あえて東京清陵会で行うとなりますと、集う人が同郷・同窓の安心・信頼感に加えて、テーマとしても、①同窓会らしい、②清陵らしいもの、が意義あり続けられる可能性が高いです。

### 3. テーマ候補

- (1) 諏訪にかかわるもの→「諏訪力」、本部連携
- (2) 勉強会発では、テーマについて、講師を囲み継続的な研鑽する集り
- (3) カジュアル、コミュニティ、健康に関する、例えば、①散歩会、②日本酒居酒屋会、③女子会発など

### 4. 運営イメージ

- (1) トライアル活動としての届け出案、①発起人3人程度、②テーマ、③目的、④計画、⑤予算、⑥登録会員5名以上
- (2) 立ち上げスケジュール：21年度トライアル活動、届け出→会員募集→活動→報告、22年度トライアル活動を踏まえた「同好会」認定
- (3) 企画・規約・周知：会報・HPなどで随時
- (4) 経費補助事務経費の補助。会場・資料・通信費など年2万円以内の実費。飲食は補助しない

## ライフシフト倶楽部(仮称)

人生100年時代といわれる。私も今年、60歳。一昔前から勤め人は、無事、終身雇用の職場を勤めあげて、悠々かはわからりませんが、自適な生活を送っていたでしょう。ところが、いまは65歳まで働くのは当たり前、70歳まで働いても、100歳まではまだ30年あります。シニアライフをどうデザインするかは、みなさんの共通するテーマです。

当会も、ここ数年、世代毎の同窓生へのアプローチとして、

- ①清陵卒業生の半分近くが首都圏の大学に進学して来ることから、「新卒歓迎学生交流会」を同窓会への登竜門として、学生自身に企画運営してもらう
- ②大学卒業時に同窓会にすんなり馴染めるよう、「働くことを考える若手の会」では、30歳前後の先輩が学生に働くことを語る場を設定
- ③30、40歳台のミドル世代は、50歳前後の社会人のベテランと交流することで、ミドルは人生の道標をみつけ、ベテランはミドルからの刺激を受け場を目指してきた
- ④参加の低かった女性も「女子会」をミドル世代中心に再興し、上下世代の語りの場となり、女子役員も増えて来ている

ところが、当番幹事(55歳)世代は、まだ現役真っ只中で、せっかく同窓会との関わりを持って当番幹事で燃え尽き、仕事の世界に舞い戻ってしまいます。

「人生100年時代」とは、2016年に、ロンドンビジネススクールのリンダ・グラットンとアンドリュー・スコットが刊行した「ライフシフト/100年時代の人生戦略」に端を発しますが、同書では、これまでの教育→仕事→引退という三つのステージの生き方は終わり、人々は長い人生の中で、より多くのステージを経験するようになる、とされています。ポスト当番幹事世代への同窓会の役割はありそうです。

たまたま、昨春、東京都が出した「東京50up(フィフティアップ)BOOK」という冊子が目にとまりました。前書に「50

歳は人生のハーフタイム。本当にやりたかったこと、これからもっとやりたいこと、自分のために、みんなのために……。あなただけのライフデザインを描いてパートナーや家族、友人、知人、そしてこれから出会う誰かと新しい自分につながっていきこう」とあります。中身を見ると、「夢を実現するために50歳からできること」とあり、仕事編、学び編、趣味編があります。

その中に、「東京セカンドキャリア塾」という東京都主催の「新たな仕事にチャレンジする意欲ある65歳以上のシニアが楽しく学びながら、セカンドキャリアについて考える場の提供」とし、20年度からは、55歳からのプレシニア講座が計画されるとあります。

たまたま、新聞の折り込みに、この塾の案内があり、書類選考、面接を経て合格すると無料で受講できました。土曜4回の午前・午後の基本講座と、翌月は土曜の午前の選択講座が組まれています。受講者は55~64歳まで、59歳の私と同世代の男女半々くらいでしょうか。基本講座では、「定年後のリアル」「働けるうちは働くためのセルフ意識改革・キャリアデザイン術」「シニアが活かせる資格・独立開業に向けて」「定年前50歳から始める《定活》」「多様な働き方を知る」などを学び、最後に「行動計画・セカンドキャリアプランニング」を作成する立て付けです。選択講座では、「アンガーマネジメント(苦境に敗けない自分づくり)」「NPO設立」「資産運用」「自分の相続」と続く。同世代とのワークなどコミュニケーションもとれます。座学以外に、キャリアカウンセリングを受けて自分を再認識したうえで、シニアが働く場での職場見学と座談会もあります。講座中に塾生サイトでコミュニケーションがとれ、講座後も、LINEでネットワーク化して、毎月定例のオンライン会で、情報交換やら、新たな働き方へのチャレンジも披露されます。

さて、「東京清陵会ライフシフト倶楽部(仮称)」ですが、「ライフシフト」をキーワードに、いろんな「ライフシフト」を果たした同窓生の生きざまを披露いただき、共有することで、シニア、プレシ

ニアへの道標、勇気……につなげられたらと考えています。

「ライフシフト」では、新たな仕事とライフスタイルの選択肢として、

- ①「エクスプローラー型(探検者)」
- ②「インディペンデント・プロデューサー型(独立生産者)」
- ③「ポートフォリオ・ワーカー型」という三つのタイプを示しています。

①「エクスプローラー型」とは、今までの知見や人脈を活かし、起業準備をして65歳を迎える、言い換えれば、人生を旅ととらえて、まず行動する。世界に目を向けてさまざまな機会を活用して自分の人生を拓き、エンジョイしていく生き方で、例えば、NPOでのボランティアも傍らで行い、定年後、海外での中小企業の海外展開をサポートします。

②「インディペンデント・プロデューサー型」は、一言でいえば、自立・自律・自走を覚悟した比類なき経営者、言い換えれば組織に雇われず、個人事業でコツコツと専門性を極めていく生き方で、例えば、クライアントを複数もち、コンサルタント的な働き方。

③「ポートフォリオ・ワーカー型」は、コツコツ地道に熟達の技術者・管理者、言い換えれば、異なる種類の活動(仕事・地域貢献・趣味)など、マルチにこなし、二足三足の草鞋を履く生き方が紹介されています。

④これに加えて「コミュニティ・ワーカー型」として、多岐にわたる人脈を活かして、さまざまなコミュニティ(集団)を形成して協働して成果を出し、仲間の成長を促すようなタイプもあるようです。

これらのロールモデルを同窓生から発掘して共有することから始めてみたいのです。40、50歳から「ライフシフト」した貴方、自薦・他薦お待ちしております。

(82回生 北原 譲)

東京清陵会

## Information

東京清陵会の会員のさまざまな情報をお届けします。今回はレストラン、ショップのオープン情報、本の出版情報ほか、テレビでも活躍中の気象予報士のご紹介、社交ダンス無料体験レッスンまで、役に立つ身近な情報をお伝えします。

## GOURMET

### くらすわ 東京スカイツリータウン・ ソラマチ店



諏訪市に本店をもつ「くらすわ」は、養命酒製造(代表取締役会長 川村昌平さん・61回生・岡谷中部中)がプロデュースするレストラン。くらすわ東京スカイツリータウン・ソラマチ店は、くらすわがテーマに掲げる「本当のすこやかさ」を多くの方に届けたいと進出した東京店。信州の自然に育まれた旬野菜や養命酒の抽出残渣を加えた飼料を与え、徹底した飼育環境で育てた「信州十四豚」などの厳選素材を使用。美味しさと「本当のすこやかさ」にこだわった、くらすわならではの料理が堪能できます。ショップ&ペカリーも併設。☎03-3624-8721 営業時間 9:00~23:00。

## SHOP

### GRANNY SMITH 池袋店がオープン



楽しく豊かな食と空間を提供する、株式会社ファンゴー(代表取締役 関俊一郎さん・89回生・上諏訪中)が展開する、国産りんごをたっぷりと使用したホームメイドスタイルのアップルパイ専門店「GRANNY SMITH(グラニースミス)」が11店舗目となる池袋店をオープン。お勧めは池袋限定の「焦しキャラメルアップルパイ」(カット500円、ホール3,850円)。東武百貨店池袋店地下1階 ☎03-5924-6581 営業時間10:00~20:00。また昨年京王百貨店新宿店(店長 瀬戸武さん・84回生・上諏訪中)にGRANNY SMITH新宿店をオープンしています。

## TV

### 気象予報士として テレビで活躍中!



スーパーJチャンネルなどテレビ朝日系の報道番組などで、災害時の気象解説や各番組の気象キャスターとして活躍しているのは、気象予報士の佐藤圭一さん(108回生・岡谷西部中)。佐藤さんは、大学卒業後、フリーアナウンサーとして活動を始め、都内のケーブルテレビなどで情報・バラエティ番組のリポーターやMCを担当。その後、活動の場を文化放送に移し、報道記者として国会や総理官邸、各省庁などでの取材を経験。またフリーアナウンサーとして活動しながら、気象予報士の資格を取得しました。テレビで見かけたら、ぜひ応援してください。

## SOCIAL DANCE

### 社交ダンスを 体験してみませんか?



東京大学理学部を卒業後、プロダンサーとして活動している上脇友季湖さん(96回生・下諏訪中)が、大塚と新松戸で社交ダンスの無料体験レッスンを行っています。動きやすい服装、脱げにくい靴があれば、どなたでも参加できます。お友達と複数での体験も大歓迎! 企業や社会人サークルの指導も承ります。ダンス大塚会館(JR山手線・大塚駅徒歩5分) <https://danceok.com/>、タハラダンススタジオ(常磐線・新松戸駅徒歩3分) <https://taha-ra-dance.com/>。ご希望の方は、上脇さんメール(y.kamiwaki@gmail.com)またはTwitter(@yukkamtrees)まで。

## BOOK

### あみぐるみ作家の眞道さんが 手芸本を出版



あみぐるみ作家として活動を続けている眞道(宮坂)美恵子さん(83回生・岡谷西部中)が「抱っこしたくなるあみぐるみワンコ」(日本文芸社/1,650円)を出版。愛犬の特徴をとらえつつ、可愛くデフォルメしたオリジナルのあみぐるみ(毛糸で編んだ人形)14種類を抱っこサイズでリアルに再現する編み物の実用書です。手に入りやすい市販の毛糸で作れ、汚れたら手洗いででき、お手入れ簡単なのも魅力。また眞道さんは、銀座・吉祥寺であみぐるみ教室「もんぱび」を主宰。編み図販売・オンラインレッスンなども開催しています。

## BOOK

### 実業家としても活躍中の 鎌倉さんの新刊



「ようこそ! フリーランス1年生 ぶっちゃけ知らない損する税金と領収書の教科書」(宝島社/1,320円)の著者は、鎌倉圭さん(101回生・諏訪中)。「フリーランスや自営業者は、マジメに税金を払い過ぎています。ネットに書いてある『税金の常識』の大半は、税務の現場を見たこともない人の綺麗ごと。『これが経費になるわけが…』という勝手な思い込みは捨ててください。税理士として、ギリギリ書けるところまで本書でぶっちゃけています」という内容。また鎌倉さんは、シンガーソングライター、広告代理店、タレント事務所、飲食店の社長など実業家としても活躍中です。

# 会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

2020年度会費納入者ご芳名(2020年4月1日~2021年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

- |           |           |           |             |           |
|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 62回 小口普臣  | 64回 新村 恩  | 68回 伊藤光員  | 71回 森 さと子   | 76回 石井和夫  |
| 62回 秋田英一  | 64回 五味 勝  | 68回 藤森照信  | 71回 増澤博和    | 76回 大村富範  |
| 62回 河西巳喜雄 | 64回 小林宇夫  | 68回 春山明哲  | 71回 磯野康子    | 76回 花岡博茂  |
| 62回 金子浩之  | 64回 金原恵介  | 68回 宮坂 静  | 72回 小口邦雄    | 76回 田沼唯士  |
| 62回 滝澤文教  | 65回 今井忠雄  | 68回 名取興平  | 72回 野口俊樹    | 76回 田中 修  |
| 62回 両角晃一  | 65回 松本禎之  | 69回 林 史章  | 72回 林 博昭    | 77回 伊藤 潔  |
| 62回 竹内洋平  | 65回 小林俊徳  | 69回 比田井和子 | 72回 新井滋平    | 77回 金子恵子  |
| 62回 中谷範行  | 65回 春日芳夫  | 69回 比田井昌英 | 72回 笠原勇二    | 77回 林 智彦  |
| 62回 宮坂元裕  | 65回 小松 功  | 69回 渡辺泰弘  | 72回 林 健康    | 77回 堀田康之  |
| 62回 藤森 汎  | 65回 松田昌憲  | 69回 藤森光彦  | 72回 桑沢元孝    | 77回 春日敏彦  |
| 62回 木川俊文  | 65回 河西靖浩  | 69回 宮坂秀一  | 72回 山田多美枝   | 77回 小口正行  |
| 63回 高木宣輔  | 65回 進藤瑞穂  | 69回 柳平克利  | 72回 小口裕治    | 77回 薩摩林恭子 |
| 63回 宮坂尚利  | 65回 関 紀雄  | 69回 柳平三雄  | 72回 会田真菜    | 77回 田添珠実  |
| 63回 倉本 實  | 66回 河合三彦  | 69回 川村美枝子 | 73回 両角 誠    | 78回 伊藤高光  |
| 63回 徳留淳朔  | 66回 太田治人  | 69回 小林正秀  | 73回 窪田 敏    | 78回 小松一俊  |
| 63回 小口哲二  | 66回 五味 洋  | 69回 中村正治  | 73回 マディーン啓子 | 78回 両角 明  |
| 63回 米山迪男  | 66回 原 昭治  | 69回 濱 照彦  | 73回 増沢充万喜   | 78回 石埜穂高  |
| 63回 荒木信行  | 66回 佐藤武夫  | 69回 矢島正昭  | 73回 浅川辰司    | 78回 宮坂彰志  |
| 63回 河合信也  | 66回 小口 治  | 69回 武村光男  | 73回 原 秀男    | 78回 武田泰明  |
| 63回 中村詔行  | 66回 丸茂雅弘  | 69回 茅野泰幸  | 73回 伊藤俊巻    | 78回 東城清秀  |
| 63回 両角 實  | 66回 宮島忠之  | 69回 木下健治  | 73回 山田雄一    | 78回 両角寛文  |
| 63回 亘理美代子 | 66回 降旗賢一  | 69回 功刀正行  | 73回 山田 泰    | 79回 飯田 良  |
| 63回 根橋順三  | 66回 林 央   | 69回 牛山隆夫  | 73回 原 大     | 79回 八嶋美保  |
| 63回 尾澤弘久  | 66回 金丸敏夫  | 69回 吉川 仁  | 73回 和泉桂子    | 79回 油井幸雄  |
| 63回 河西武彦  | 66回 長田敏行  | 70回 土橋 務  | 73回 熊谷靖樹    | 79回 原田 健  |
| 63回 小平 協  | 67回 丸茂義典  | 70回 清水英俊  | 74回 土屋彰男    | 79回 飯田 良  |
| 63回 藤森宏一  | 67回 池上志奈子 | 70回 竹村善隆  | 74回 五味克成    | 79回 佐藤敏夫  |
| 63回 五味正得  | 67回 武井勇治  | 70回 小林金好  | 74回 北原嘉泰    | 80回 矢島 豪  |
| 63回 蜜澤裕二  | 67回 守矢早苗  | 70回 齊藤万比古 | 74回 金井良一    | 80回 工藤千秋  |
| 63回 齊藤 亨  | 67回 平林千義  | 70回 齊藤憲一  | 74回 白鳥 清    | 80回 柳平正樹  |
| 63回 小松広茂  | 67回 小平 攻  | 70回 細川芳雄  | 74回 窪田 修    | 80回 花岡友子  |
| 63回 小池三造  | 67回 三井敏彦  | 70回 石田和夫  | 75回 柳沢治通    | 80回 青沼裕之  |
| 63回 金井英雄  | 67回 細川正行  | 70回 米澤英樹  | 75回 宮下和彦    | 80回 米澤あ子  |
| 63回 丸山佳広  | 67回 土橋修平  | 70回 喜内静美  | 75回 平出 敏    | 81回 河合俊明  |
| 63回 山田善彦  | 67回 浜 勝堂  | 70回 藤森行雄  | 75回 伊東晴俊    | 81回 松原雅子  |
| 63回 清水洋右  | 67回 藤井光子  | 70回 唐木康正  | 75回 小平 聡    | 81回 小池弘人  |
| 63回 溝口 登  | 67回 名取省三  | 70回 中村典男  | 75回 有賀文彦    | 81回 小口久雄  |
| 63回 守屋憲一  | 67回 竹村善雄  | 70回 小口隆夫  | 75回 有賀一温    | 81回 山本留美  |
| 64回 武井省吾  | 67回 丸山秀士  | 70回 功刀明美  | 75回 大島 隆    | 82回 青木基浩  |
| 64回 祖父江宏三 | 67回 五味巻二  | 70回 平山哲三  | 75回 伊藤せい子   | 82回 篠原誠一  |
| 64回 横内 稔  | 67回 宮坂榮一  | 70回 垣内国光  | 76回 前島秀戈    | 82回 竹内雅彦  |
| 64回 平林正稔  | 67回 原美津子  | 70回 高岸洋夫  | 76回 金子次男    | 82回 有賀 進  |
| 64回 川村洋二  | 67回 増沢和夫  | 70回 一瀬益夫  | 76回 北澤道子    | 82回 北原 讓  |
| 64回 小口哲男  | 68回 古河 仁  | 71回 浜 研一  | 76回 関屋孝行    | 82回 三井哲志  |
| 64回 仁科真爾  | 68回 原田盛夫  | 71回 森 史朗  | 76回 須田裕子    | 82回 河西龍彦  |

全5業態 15店舗



グラニースミス  
アップルパイ&コーヒー

東京・神奈川・兵庫で11店舗を  
展開するアップルパイ専門店



ファンゴ

創業25年を迎えたサンド  
イッチ・ハンバーガーカフェ



ファンゴダイニング

イタリアンベースの料理やワインを  
楽しめるカジュアルダイニング



テンフィンガーズバーガー

50'sテイストを盛り込んだ  
アメリカンハンバーガーカフェ



酒 秀治郎

様々な日本酒を飲み放題で  
味わえる完全予約制居酒屋

FUNGO GROUP

<https://www.fungo.com>



株式会社ファンゴ

代表取締役 関 俊一郎 (89回生)

82回 小野隆吾	83回 倉田重子	84回 島崎義都	87回 蟹澤啓明	92回 西村和訓
83回 上條宏一	83回 河西君秋	84回 野村典亨	88回 藤森裕基	92回 植松かおり
83回 松崎任宏	83回 中村美穂	84回 小口和彦	88回 増澤浩一	93回 柳澤寿男
83回 森 政宏	84回 赤羽俊昭	85回 伊東和夫	88回 村山光義	95回 高原由紀子
83回 岡本 徹	84回 飯田秀機	86回 大久保淳一	88回 高島由季子	96回 熊谷和則
83回 内川 昇	84回 小海健治	86回 谷寿々子	88回 楠見春美	97回 川崎 剛
83回 伏見升成	84回 小口 高	86回 青木裕子	89回 城取重行	98回 北澤 聡
83回 両角信彦	84回 清水信次	87回 玉田千恵	90回 古村雅利	99回 北澤俊二
83回 小松 裕	84回 眞田明美	87回 浜野 崇	90回 深田佳子	116回 秀島真奈
83回 小平俊史	84回 立木 繁	87回 有賀誠司	91回 小松文美	

### 2020年度賛助金納入者ご芳名 (2020年4月1日~2021年5月31日までに入金があった方) (敬称略)

38回 北原文雄	59回 小松 守	63回 丸山佳広	69回 功刀正行	78回 小松一俊
40回 矢崎文彦	59回 宮川良一	63回 山田善彦	70回 齊藤憲一	78回 石埜穂高
44回 小口 斌	59回 高橋靖夫	64回 武井省吾	70回 米澤英樹	79回 油井幸雄
46回 齊木 堯	59回 矢崎豊国	64回 祖父江宏三	70回 藤森行雄	79回 原田 健
46回 小泉和明	59回 向山喜一	64回 横内 稔	70回 功刀明美	79回 佐藤敏夫
48回 鈴木 徹	59回 金子政喜	64回 新村 恩	70回 平山哲三	80回 矢島 豪
48回 宮坂勝郎	60回 高木祥勝	64回 五味 勝	70回 一瀬益夫	80回 米澤あ子
49回 代田繁夫	60回 小川浩史	64回 小林宇夫	71回 増澤博和	81回 河合俊明
49回 藤澤睦雄	60回 加室 昂	65回 小林俊徳	71回 磯野康子	81回 小口久雄
50回 舟岡正男	60回 野澤和雄	65回 河西靖浩	72回 新井滋平	81回 山本留美
50回 樋口公二	60回 金丸容哉	66回 河合三彦	72回 林 健康	82回 青木基浩
50回 中村脩一	60回 山田吉邦	66回 五味 洋	72回 山田多美枝	82回 篠原誠一
50回 寺島敏郎	60回 原田研一	66回 宮島忠之	72回 小口裕治	82回 竹内雅彦
51回 林 將雄	60回 野澤 勲	66回 林 央	73回 窪田 敏	82回 北原 讓
51回 堀内昭八	60回 永田郷雄	66回 金丸敏夫	73回 マディーン啓子	82回 小野隆吾
51回 小松袈伴	61回 山崎宏三	66回 長田敏行	73回 増沢充万喜	83回 松崎任宏
51回 藤森定義	61回 有賀嘉信	67回 丸茂義典	73回 浅川辰司	83回 森 政宏
51回 山崎壮一	61回 北原 隆	67回 武井勇治	73回 原 秀男	83回 岡本 徹
52回 榎本平三	61回 矢崎豊明	67回 守矢早苗	73回 伊藤俊巻	83回 内川 昇
52回 笠原哲次	61回 瀬戸明彦	67回 平林千義	73回 山田 泰	83回 伏見升成
52回 渡邊義郎	61回 川村昌平	67回 小平 攻	73回 原 大	83回 小松 裕
52回 笠原邦三	61回 松澤良治	67回 三井敏彦	73回 和泉桂子	83回 小平俊史
56回 河西啓二	61回 中村隆一	67回 浜 勝堂	74回 五味克成	83回 倉田重子
56回 下平勝幸	61回 鋤柄光則	67回 名取省三	74回 北原嘉泰	83回 河西君秋
56回 渡部 清	61回 宮坂真也	67回 丸山秀士	74回 金井良一	83回 中村美穂
57回 五味 乙	62回 河西巳喜雄	68回 春山明哲	76回 金子次男	84回 小海健治
57回 大井利夫	62回 藤森 汎	68回 宮坂 静	76回 関屋孝行	84回 立木 繁
57回 篠原康夫	63回 河合信也	68回 名取興平	76回 須田裕子	86回 青木裕子
57回 今井恒夫	63回 両角 實	69回 林 史章	76回 石井和夫	87回 有賀誠司
58回 鈴木由美子	63回 根橋順三	69回 比田井和子	76回 田中 修	88回 藤森裕基
58回 茅野充男	63回 尾澤弘久	69回 比田井昌英	77回 金子恵子	88回 楠見春美
58回 落合正行	63回 小平 協	69回 宮坂秀一	77回 林 智彦	90回 古村雅利
58回 吉田 嵩	63回 藤森宏一	69回 小林正秀	77回 堀田康之	95回 高原由紀子
58回 石城浩吉	63回 齊藤 亨	69回 矢島正昭	77回 春日敏彦	116回 秀島真奈
59回 城取俊昭	63回 小松広茂	69回 武村光男	77回 田添珠実	



〒392-0027 長野県諏訪市湖岸通り2-7-21  
TEL 0266-57-1111 / 予約センター (9時~20時)

コロナ感染対策を徹底してお待ちしております

**東京清陵会の現状** データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2021年3月31日現在)。

1. 東京清陵会会員の定義 (1) 首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木)在住の同窓生(ただし、退会申し出者を除く)。(2) 転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。 2. 会員現勢 総数2,728名(住所不明者1,428名を除く) (1) 都県別会員数 東京都1,246名、神奈川県561名、千葉県342名、埼玉県336名、茨城県54名、群馬県21名、栃木県21名、その他147名 (2) 年次別会員数と会費納入状況(下表)

**別表 年次別会員数と会費納入状況(2021年3月31日現在)**

回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費
23-37	3	35	38	0	61	67	14	81	10	82	51	25	76	8	103	2	5	7	0
38	4	3	7	1	62	79	10	89	11	83	69	34	103	12	104	0	2	2	0
39	2	3	5	0	63	85	13	98	27	84	51	27	78	10	105	1	0	1	0
40	1	5	6	1	64	64	15	79	11	85	48	43	91	1	106	2	6	8	0
41	3	9	12	0	65	66	15	81	9	86	44	37	81	3	107	1	0	1	0
42	8	7	15	0	66	67	23	90	12	87	32	33	65	4	108	2	12	14	0
43	6	2	8	0	67	87	16	103	18	88	28	48	76	5	109	2	12	14	0
44	10	9	19	1	68	59	29	88	7	89	42	52	94	1	110	1	14	15	0
45	8	7	15	0	69	94	19	113	18	90	37	31	68	2	111	2	4	6	0
46	14	12	26	2	70	84	26	110	18	91	22	40	62	1	112	2	1	3	0
47	17	6	23	0	71	66	30	96	5	92	21	48	69	3	113	10	4	14	0
48	32	7	39	2	72	46	22	68	10	93	16	32	48	1	114	3	4	7	0
49	44	6	50	0	73	70	20	90	12	94	22	22	44	0	115	7	2	9	0
50	43	16	59	4	74	62	29	91	6	95	12	31	43	1	116	13	3	16	1
51	50	25	75	5	75	54	21	75	9	96	13	39	52	1	117	5	2	7	0
52-55	72	17	89	5	76	55	22	77	10	97	13	23	36	1	118	12	14	26	0
56	73	9	82	3	77	54	24	78	8	98	5	33	38	1	119	15	6	21	0
57	79	16	95	4	78	60	40	100	8	99	9	12	21	1	120	11	6	17	0
58	59	14	73	5	79	59	19	78	6	100	6	19	25	0	合計	2,728	1,428	4,156	332
59	75	12	87	7	80	70	12	82	6	101	2	12	14	0					
60	76	27	103	9	81	66	19	85	5	102	1	5	6	0					

注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方  
 2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方  
 3) 会費:前会計期(2020.4~2021.5)会費あるいは賛助金納入者の人数  
 会費免除会員(~61回生、および117回生~)の人数 1,078名

**第1号議案(2) 2020年度決算(案)**

**収支計算書(案)** 自2020年4月1日~至2021年3月31日 (単位:円)

**収入の部**

科目	予算額	決算額	差異 (予算の方が)
1 会費	2,510,000	1,218,000	1,292,000
(1) 総会費(延期)	1,280,000	0	1,280,000
(2) 会員年会費(262名)	560,000	524,000	36,000
(3) 賛助金会費(183名)	670,000	694,000	△ 24,000
2 諸収入	101,200	80,434	20,766
(1) 寄付金	50,000	50,000	0
(2) 預金利子	1,200	434	766
(3) 広告料	50,000	30,000	20,000
当期収入合計(A)	2,611,200	1,298,434	1,312,766
前期繰越	7,383,407	7,383,407	0
収入合計(B)	9,994,607	8,681,841	1,312,766

**支出の部**

科目	予算額	決算額	差異
1 経費			
(1) 総会費用(延期)	1,400,000	0	1,400,000
(2) 会議費	60,000	0	60,000
(3) 諸会費	60,000	12,000	48,000
(4) 印刷・通信費	130,000	140,357	△ 10,357
(5) 事務雑費	50,000	39,841	10,159
(6) 会報費	800,000	733,335	66,665
(7) 清陵勉強会	30,000	30,000	0
(8) HP運営費	50,000	29,220	20,780
(9) 予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計(C)	2,610,000	984,753	1,625,247
当期収支差額(A)-(C)	1,200	313,681	△ 312,481
次期繰越(B)-(C)	7,384,607	7,697,088	△ 312,481

寄付金:本部より支部活動助成金として50,000円

**貸借対照表(案) 2021年3月31日現在 (単位:円)**

科目	金額	
I 資産の部		
流動資産		
現金	0	
普通預金(三菱UFJ)	289,816	
定期預金(三菱UFJ)	5,046,666	
郵便振替口座(会費・賛助金)	2,364,606	
流動資産合計	7,701,088	
資産合計		7,701,088
II 負債の部		
流動負債		
前受金	4,000	
流動負債合計	4,000	
負債合計		4,000
正味財産		7,697,088
(うち当期正味財産増加額)		(313,681)
負債及び正味財産合計		7,701,088

以上監査の結果、正確なものとして認めます。

令和3年5月10日 監査幹事 有賀朝彦 ㊞  
 青木基浩 ㊞

**第2号議案(2)**

**2021年度収支予算(案)** 自2021年4月1日~至2022年3月31日(単位:円)

**支出の部**

科目	金額
総会費用(再延期)	0
会議費	60,000
諸会費	60,000
印刷・通信費	160,000
事務雑費	20,000
会報費	800,000
清陵勉強会	30,000
HP運営費	50,000
予備費	30,000
小計	1,210,000
次期繰越	7,758,288
合計	8,968,288

**収入の部**

科目	金額
総会費用(再延期)	0
会員年会費	520,000
賛助金会費	700,000
寄付金	0
預金利子	1,200
広告料	50,000
小計	1,271,200
前期繰越	7,697,088
合計	8,968,288

(注) 2021年度予算の収支差額は61,200円の剰余金となります。

### 東京清陵会2020(令和2)年事業報告 第1号議案(1)

#### 2020 (令和2年度)

- 5・19 清陵勉強会 特別講義 zoom開催、講師:五味克成(74回生)
- 5・29 第1回事務局会議 zoom開催
- 7・8 学年幹事会 zoom開催
- 8・15 会報「東京清陵会だより」第31号発行 発送3,000部
- 10・3 第54回定期総会 議事のみ会報での書面開催し、議案は可決
- 10・27 第180回清陵勉強会 zoom開催、講師:鳥羽研二(73回生)
- 11・10 第2回事務局会議 zoom開催
- 12・5 第6回働くことを考える若手の会(開催幹事107回生、zoom開催、参加15名)
- 12・19 第6回 女子会 zoom開催、参加12名、諏訪・名古屋からも参加あり
- 12・22 第181回清陵勉強会 zoom開催、講師:石田晋也(87回生)

#### 2021 (令和3年度)

- 1・23 第7回ミドル交流会(開催幹事89回生、zoom開催、参加70名)
- 2・23 第182回清陵勉強会 zoom開催、講師:宮坂覺(66回生)

### 東京清陵会2021(令和3)年事業計画 第2号議案(1)

- 第55回総会・交流会 10月3日(日曜) zoom開催 当番幹事88回生
- 会報「東京清陵会だより」第32号の発行 8月上旬
- 事務局会議(4,11月、zoom開催)
- 常任幹事会(5月)・幹事会(7月)いずれもzoom開催
- 第7回働くことを考える若手の会の開催
- 第8回ミドル交流会の開催(11~12月)
- 第7回女子会の開催(8~9月)
- 新卒歓迎・学生交流会
- 清陵勉強会の開催(原則偶数月の第4火曜日)
- 会則改正・細則制定
- 事務局・委員会制度の整備
- 会員情報管理の高度化・効率化
- 東京清陵会ホームページの拡充、SNS利用の拡大
- 懇親ゴルフ会の開催(春は中止、秋は検討中)
- 本部同窓会・南信同窓連・東京同窓連活動への参加
- 母校・生徒との連携・交流の拡充(講師派遣・職場見学協力・清陵祭への参加等)
- その他必要とする事業

※コロナウィルス感染状況で開催できない場合もあります。ホームページでお知らせします。

### 東京清陵会会則改正案 第3号議案(HPご参照)

#### 編集後記

- 今回、編集ページを持つことになり、一瞬ひるみましたが、担当して良かったとしみじみ感じています。それぞれの観点で同じ時代を見つめ活躍する同窓生たちとの出会いは衝撃的でしたし、自分のオリジンに立ち戻る機会にもなりました。これを糧に、今後も励んでいきます！(春美)
- 特集ページの編集を担当し、多くの同窓生に取材したり、お話を聞く機会を頂きました。コロナで不安な状況にあっても、誰一人として後ろ向きでなく、自分の考えで前向きに行動している姿を目の当たりにし、「清陵魂」という言葉を感じざるを得ませんでした。(美智子)

### 訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏名	回	逝去年月日
牛山邦男	39	2017/9/3
矢崎文彦	40	2020/11/20
小松清美	43	2020/10/30
矢花和一	43	2014/2/23
秋山義明	44	2019/10/1
高木章雄	44	2020/10/15
両角今朝芳	45	2020/1/17
宮沢信雄	46	2018/10/5
平出 香	47	2020/1/7
網倉宗平	48	2017/3/20
松村三喜男	48	2020/11/2
小林一明	48	2019/10/17
小林賢吉	48	2018/12/25
林 五平	48	2019/11/4
阿部 孟	49	2019/2/21
奥村知己	49	2021/3/3
笠原善市朗	49	2020/4/26
五味利夫	49	2021/4/20
藤澤睦雄	49	2020/3/8
山添茂一	49	2019/
五味郁夫	50	2019/7/29
寺島敏郎	50	2021/3/30
中村平治	50	2021/3/17
岩波裕治	51	2020/8/13
小坂雄一	51	2020/11/15
友野 弘	52	2020/2/25
菱田淳二	52	2020/2/20
林 尚孝	52	2020/11/27
降幡泰夫	52	2019/8/27
小口勝次	56	2018/10/14
津金 真	56	2020/5/16
新村 敦	56	2021/5/3
丸山彦明	56	2019/5/7
実村明男	56	2020/7/22
小口敏之	57	2020/12/16
佐藤栄一	57	2020/11/3
宮坂康夫	57	2020/10/7
加賀見光平	58	2020/7/
加藤宏治	58	2020/1/16
上條 衛	58	2020/1/15
平尾三喜	59	2020/11/19
小平 宏	60	2020/6/12
伊東章宏	61	2016/1/20
五味忠晴	61	2020/9/29
出羽弘明	61	2020/2/1
石井 進	62	2019/7/8
小口倫弘	62	2020/12/24
佐藤仁宏	62	2020/9/20
三好武吉	62	2020/2/
小沢正東	63	2020/10/25
加々見輝人	64	2019/11/8
五味淳吾	64	不明
藤森 弘	64	2019/1/3
佐藤武夫	66	2021/2/24
林 武昭	67	2020/2/8
深澤豊昭	68	2021/3/25
村山 哲	68	2021/1/17
小口牧通	69	2020/6/2
千野好昭	71	2017/10/31
小林 正和	73	2020/4/20
山田 寛	79	2015/5/28
川手克夫	81	2021/5/1

●事務局にご連絡をいただいた方(本会会報第47号含む)を掲載。

諏訪の酒 真澄です。



## 人 自然 時を結ぶ

人を結ぶ— 一人が集う和やかな食卓の実現、そのための良質な食中酒造り。  
 自然を結ぶ— 負荷を最小限にしてより良い自然環境を継承する。  
 時を結ぶ— 文化の継承。新たな価値の創造。

七号酵母発祥蔵元  
 宮坂醸造株式会社 〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16  
 TEL: 0266-52-6161 FAX: 0266-53-4477



真澄ホームページ